



ペチカで焼いたパンケーキ
部屋中にひろがる野菜スープの香り
暖かさが見える、聞こえる、匂っている

光と影が交錯して
形に思いが重なる

ひな鳥を包みこむ無骨な手
熟れて落ちるリングに驚きの声
尊さ、謙虚さが所作に繰り返される

冷気がいつの間にか
頬になじんでいた

ベラルーシ 三つの再会



—第2回—

「チェルノブイリ事故後、放射能の影響を心配して、小児科から血液科が独立しました。私は、4人の医師と日本の連帯基金と共にこの病棟を作ってきたと思っています。」

肩と頭を固定していた金具がはずされ、手も動くようになったタチヤーナ・シュミヒナ。鎌田理事長は「ターニャ」と染め抜いた大漁祝い法被をプレゼントしました。

JCFの12年の歩みを共に支え合ったたくさんの仲間たち。キーパーソンとも言える3人を訪ねた様子を、ご報告します。



54号 秋

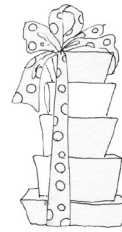
CONTENTS

ベラルーシ三つの再会 —第2回—	5
お母さん、あなたに会いに行こう 日本の仲間の気持ちを届けに！ 「ぼきんやドットコム」のお知らせ	12
特集1 三つの訪問団 11月に相次いで出発！	13
医療機器支援 ボレーシェ学校健康診断 新生児支援 泉ツアー顛末記	18
特集2 原発トラブル隠しを考える	
放射線災害に備えて地域の防災対策は？	20
一刻も早く原子力の時代にピリオドを！	22
怒り渦巻く東京電力原発現地	23
報道のかげに隠された真の問題点の把握を！	25
原子力資料情報室公開研究会報告	31
高木仁三郎さんを偲ぶ会	32
那珂町通信	34
連載随筆「忘れないために2」＜宮尾彰＞	36
ジーマのロシア小話	38
振替用紙のメッセージから	40
「アレクセイと泉」上映会アンケートから	43
ありがとうございました	44
出会い Встреча	46
ベラルーシの食卓	51
粗忽堂本舗＜村石保＞	52
原発トラブル隠し関連記事	54
ニュースクリップ／ベラルーシニュース	62
Здравствуйте!（事務局広場）	66
本の紹介 Book review	68
「アレクセイと泉」上映予定	70
事務局日誌	71

—第2回—

お母さん、あなたに会いに行こう

日本の仲間の気持ちを届けに！



神谷 さだ子

「ほら、こんなに手も動かせるようになったのよ」。タチヤーナ・シユミヒナ先生は、ゴメリ州立病院3階の移植部集中治療室で、同僚達から手厚い看護を受けていた。ベッドに横になったまま、両手をにぎったり広げたりして、回復の成果を私たちに見せようとする。「どうですか」と遠慮がちにベッドわきに立つと、苦しい病と闘っているのはシユミヒナなのに、彼女の深い懐に包まれ、お見舞いする私たちがホッとしてしまうのだ。また、おおらかで暖かい笑顔に迎えられた。

2000年春、チエルノブイリ支援事業の中間評価を行うために、私達はゴメリを訪問した。JCFのメンバーとゴメリ州執行委員会、保健局、州立病院の関係者による円卓会議の様子がテレビや新聞で報道された。それを見た、ウラジミール親子とマリア伯母さんが病院にやってきた。91年1月、J

C Fの訪問団が初めてゴメリで会った白血病の8才の男の子だった。小児血液病棟の医局で10年ぶりの再会を喜び合った。『この子を日本に連れていってほしい。日本の進んだ医療でこの子の命を救ってほしい』エレナ母さんとおばさんがこう言ったんだよね。



シユミヒナ医師を見舞う鎌田理事長・神谷事務局長

鎌田理事長が、10年前の出会いを思いだし、語り始めると、お母さんは目頭を押さえて、廊下に飛び出した。日本のお医者さんとの出会いがウラジミールの運命を変えた。

この時も、タチヤーナは黙って微笑んでいた。

「ぼくたちも、こういう支援がいいのか模索していた。日本に連れて行つてと言うお母さんに対して、タチヤーナはこう言った。『一人の子どもを日本に連れていって治療するお金があったら、私達はここで、10人の子ども達の命を救う事ができます』。この時に、僕たちの方向性も決まったんだ。この汚染地で、子ども達の命に直接向かい合って闘っているお医者さんたちを、日本からサポートしよう。現地医療の自立自助を応援していこう、とね」。

鎌田先生の言葉にタチヤーナはこう答えた。

「私達にも物があつたら、日本と同



日本からの医薬品のプレゼントを前に、笑顔のシユミヒナ医師（1995年）

じような治療ができるのに。ベラルーシは経済状態が悪くて、薬や医療資材がありません」タチヤーナはいつも明快だ。医療環境の差は誰の目から見ても歴然としていた。91年から、ベラルーシを訪れる信州大学のお医者さんたちは何もない手術室、古い旧ソ連製の機器を見て、日本よりは20～30年は遅れていると口をそろえて言われた。厚さも形も違う窓ガラスを切って作った顕微鏡用のプレパラートグラス。18年前の脳波計、どれも正確な診断ができるとは思えない。「今ベラルーシはとても大変な状態です。私達は自分達の力だけでは子ども達に十分な治療をする事ができません。子ども達はどれも回復したいのです。でも私達の力だけではとても低いレベルの治療しかできない。病気にかかった子ども達に国の経済は関係ありません。みんな同じように治りたいと思ってるんです」。タチヤーナの真摯な言葉に、日本から行った私達はいつも、逆に励まされてきたのではないだろうか。現場に誇り高く臨む彼女がいたからこそ、チエルノブイリ支援の形が対等な関係で作られてきた。

鎌田先生と連れ合いのさと子さんは、日本から大漁の祝い法被^{はっぴ}をお見舞いに準備された。華やかな型染めの背中にロシア語でターニヤと染め抜きが入っている。法被の由来について聞きながら、タチヤーナは、静かに語った。

「私達は、91年、チエルノブイリ事故後、子ども達に白血病が増えるのではないかと懸念し、小児科から血液病棟を独立させました。私と3人の若い医師、6人の看護婦で出発したんです。JCFと出会ったのもその頃だったわね。私達は、JCFと共にこの病棟をつくってきました」。病床にあるタチヤーナから聞いたこの言葉は、JCFにとってなんて重い一言だろう。信頼できるパートナーに出会い、共に『子ども達のために』と取り組んできた。持てる者から持たざる者への憐れみの支援ではなく、私達は対等な立場で安心してベラルーシに言い続けてきたのだ。あの頃、日本ではすでに不治の病

ではなくなっていた急性リンパ性白血病の2年寛解率は、ベラルーシではわずか10%に過ぎなかった。12年の協働によって、今では、70%に上がっている。

95年の秋だった。ベラルーシの児童に対しての初めての試み、末梢血幹細胞移植について学ぶために、日本に短期研修をした。タチヤーナはJCFの事務局に寄り、留守中の様子を聞くためにゴメリの病院に電話した。うなずきながら、入院中の子供達について聞いていたタチヤーナの大きな目から、突然、大粒の涙があふれ出た。タチヤーナと検査室のガリーナ先生が、子供達の治療法を学びにやってくるその時に、診ていた子どもが亡くなったのだ。「私たちの力だけでは、…できません」と言っていた彼女の無念さが、そばにいた私たちにも伝わってきた。いくつかの子供病院、大学病院を視察



任せた。州執行委員会や病院長との折衝を彼女がやりながら、後進を育てていった。しかし、ちょうどその頃、日本で研修を受け、これからベラルーシの小児血液疾患の子供たちを診ていくキーパーソンになろうというミハイル・ボガチェンコ医師も絶望の中に

いたのだ。医師になりたての頃、彼の患者だった女性と結婚したものの、白血病が再発し、亡くなったのだ。JCFが初めてベラルーシから研修に呼んだミーシャ（ミハイル）は悪条件の中で迷いながらも、最も汚染のひどいこのゴメリで子ども達の治療にあたらう

し、物が無いベラルーシでもできる方法を模索し、検討していた最中だった。「私達の研修が子ども達の命に間に合わない！」はらはらと大きな熱い涙が止まらなかった。

骨髄バンクもないベラルーシで一番リスクの少ない自家末梢血から幹細胞を取り出し、再輸血する治療法を確認したタチヤーナは、帰国すると血液疾患の集中治療室の準備に取りかかった。そして、責任者を若いミハイルに



ミーシャ医師、シュミヒナ医師、イリーナさん、神谷

と、決心しつつあったのに。医局で、ミーシャの不幸な出来事に一同ため息を付く中「ミーシャは私が守る。一人になったミーシャを若い看護婦さんたちからの誘惑からも守ってやるわ」とタチヤーナは豪語するのだった。

「私達は、日本で研修を受け、効果的な治療をするための設備も整いしました。末梢血幹細胞移植で子ども達の命も救ってきました。10年以上進めてきた協力は、これからも続いて行くでしょう。でなければ、これまでの協力の意味がなくなります」。円卓会議の席上、タチヤーナは声高らかにこれまでの評価と今後の展望を語った。今、ミーシャは移植部の部長として、活躍している。

タチヤーナの再発がわかったのは、それから2ヶ月後だった。衛星通信で日本から心配する私たちに「大丈夫、大丈夫」と言いながら、彼女が部屋か



シュミヒナ医師と小池医師

ら出ていった後、ミーシャはこう言うのだった。「今のタチヤーナは、医者ではありません。患者です。タチヤーナは、ぼく達にとって、先輩であり、上司であり、そしてお母さんです」。入院している子ども達にとって、付き添っている家族にとって、共に働く医師や看護婦さん達にとっても、彼女は『お母さん』だった。そして、もちろん、日本にいる私達にとっても『お母さん』なのだ。ミーシャから返されてくる言葉はつらく、痛い。そして、暖かい。

95年、子ども達のナチュラル・キラー細胞に異常がみられると調査に入ったとき、彼女が言った言葉がある。「チェルノブイリによってベラルーシの子ども達が受けた負荷を日本のお医者さん達との協力によって、子ども達に未来をプレゼントしたい」。劣悪な医療環境とさまざまな困難の中にある医師の、責任ある言葉だった。病棟の環境を整えながら、先進的な治療に若い医

師達を抜擢して、フォローしている。末梢血幹細胞移植は9人目になり、現地医師が自ら行っている。どんなに忙しいときも、廊下ですれ違う入院中の子ども達の頭をなで、目線を同じくして語りかける、お母さん医師だ。

初めての末梢血幹細胞移植を受け、2年前に亡くなったアンドレイ君の家族に会ってきた事を伝えた。病床に横たわりながら、タチヤーナはうなずいている。「あの子はとっても賢い子だった。だけど、お母さんは何でも構い過ぎていたんじゃないかな。いい子だったから、もっとほっといてもいいのに」。たくさん患者である子ども達の個性も良く見ている。

医局の彼女の机には、子ども達と一緒に撮った写真がいっぱい貼ってある。みんな彼女の子ども達だ。

シュミヒナ先生が乳ガンの骨転移

で寝たきりになったと連絡を受けてから、私たちは機会あるごとに様態を尋ねていた。抗ガン剤の化学療法、放射線治療を組み合わせ、その最中にも職場を離れることはなかった。吐き気をこらえながら、当直室で点滴を打ちながら、入院している子ども達を診ている。

「シュミヒナには、仕事が必要です」

若い看護婦エレナさんは、仕事をしようとするシュミヒナを止める事ができないと、こうつぶやいた。医師としての仕事に総てを掛ける熱意、それは、私たちにもよく解った。

ベッドに横たわるシュミヒナ先生に鎌田先生が声をかける。「僕たちは、シュミヒナがいたから、これまでやってきたんだよ」。

病気は苦しい。つらい。「8月には、職場に復帰し、あなた達を迎えるわ」と言っていたタチヤーナ。しかし、その8月、また転移が広がり、化学療法が再開している。

11月は、医療機器設置、児童健康診断、小児白血病治療と訪問団が続く。シュミヒナと共にベラルーシの白血病の子ども達の治療に取り組んでいた信州大学の小池先生は、当初ゴメリを日程に入れようとしなかった。飛行機のチケット確定の報告を電話でする

と、初めて言った。「ミンスクでの調査が終わったら、ゴメリに行く。…僕は、シュミヒナに会っても何も言えない…。なんて言ったらいいか解らない…。共に血液病棟を作ってきた仲間だ。

鎌田先生は『8000キロを越えた家族』と言う。

私達は日本にいる皆さんの気持ちを一緒に持って、あなたに「会いに行こう!」。

(第66次訪問団に参加する予定だった小池医師は、出発直前に、ご都合により来年2月に渡航を延期されました。)



特集 1

医療機器支援
ポレーシェ学校健康診断
新生児支援

三つの訪問団
11月に相次いで出発！



医療機器支援品の輸液ポンプ・シリンジポンプのメンテナンスをするメディカルエンジニアのみなさん
(JCF事務局倉庫にて)

インターネットを利用して
コンビニエンスストアでも
ご寄附が可能になります

セブンイレブン、サンクス、ampm、MINI STOP、
LAWSON、Family Mart、サークルK、
ポプラ、SAVE ON、Daily Yamazaki、スリーエフ
にて



財団法人・オイスカの運営する「ぼきんやドットコム」にJCFがもうすぐ加盟します。

ぼきんやドットコムは、様々な団体が呼びかけている募金・寄付の内容を紹介し、オンライン・ショッピングと同様の流れで、寄付の申込み手続きができるサイトです。

JCFにご寄付いただくためには、今までなら郵便局に行って振り込んでいただくか、現金で頂くしか方法はありませんでした。JCFがぼきんやドットコムに加盟することによって、どなたでもコンビニエンスストアでもお振り込み頂くことができ、ジャパネット銀行に口座をお持ちの方はインターネット上でもご寄付頂くことが可能になります。

是非ご利用下さいませよう、よろしくお願い致します。

詳しくは以下のサイトをご覧ください。

<http://www.bokinya.com/>



第 64 次訪問団

- 目的：1. ゴメリ州立病院・チェチェルスク地区病院医療機器のメンテナンス
2. ゴメリ腫瘍病院医療機器設置
3. モロヂチノ総合病院支援機器設置
4. 小児血液がんセンターにてストロンチウムと小児がんの調査研究に着手
5. ベラルーシ全体の小児血液がん調査

メンバー：

- ・藤牧久芳（波田総合病院：臨床工学技士）・小池保寛（エム・イー：臨床工学技士）
- ・宮沢英典（諏訪中央病院：看護師）・廣浦学（諏訪中央病院：臨床工学技士）
- ・西澤英次（上條機械店：臨床工学技士）・樹神哲郎（ビー・ブラウン：臨床工学技士）
- ・白柳淳（ミュージシャン）・坂井弘美（学生）・神谷さだ子（JCF事務局）

日付	行 動 予 定	宿 泊
11/2（土）	成田発（アエロフロート SU582 13:00/17:05）	モスクワ
11/3（日）	モスクワ市場調査 ミンスク行き列車 22：25	列車泊
11/4（月）	ミンスク着 07：27 車でモロヂチノ移動 A: モロヂチノ総合病院（機器設置） B: 成田発（SU582 13:00/17:05） ミンスク行き夜行列車 10：25	モロヂチノ
11/5（火）	A: モロヂチノ総合病院（機器設置） B: 小児血液がんセンター （液体シンチレーションカウンター設置）	モロヂチノ
11/6（水）	A: モロヂチノ総合病院（機器設置） B: 小児血液がんセンター （液体シンチレーションカウンター設置） 午後車でゴメリへ移動	ゴメリ
11/7（木）	ゴメリ州立病院（機器設置） ゴメリ腫瘍病院（機器設置）	ゴメリ
11/8（金）	ゴメリ州立病院 チェチェルスク地区病院 モスクワ行き夜行列車 19：25	列車泊
11/9（土）	モスクワ着 09：05 モスクワ発 19：10（SU575）	機内泊
11/10（日）	成田着 9：40	

訪問団予定

今年度のチェルノブイリ医療支援の訪問団派遣事業が11月に集中した。医療機器設置と使い方の指導に第64次訪問団7名、恒例になったボレーシエ学校の健康診断に6名、新生児支援に1名の大訪問団となった。医療機器の輸送に合わせた日程で3チームが次々に訪問することになった。事前準備と綿密な打ち合わせが続いている。機器セットアップを何度も繰り返し復習するエンジニアの熱心な姿に打たれ、仕事に順調に運ぶよう万全を尽くしたいと思う事務局である。

次号では、彼らの心意気と熱い姿を報告したい。

メディカルエンジニアの皆さんの活躍で、ベラルーシの白血病治療と新生児支援のための超音波診断装置・呼吸器回路・シリンジポンプ等の医療機器（20フィートコンテナ1台分）の船便が、9月4日名古屋港を出港しました。10月4日ハンブルク港着。10月15日にそれぞれの病院に到着しました。

64次訪問団・メディカルエンジニアチームはゴメリ州立病院・チェチェルスク地区病院にこれまで設置した医療機器の保守点検、ゴメリ腫瘍病院・モロヂチノ総合病院で機器を設置します。

日通船便の発送が当初の予定より遅れてしまい、渡航日程が変更になったり、例によって病院に着いた荷物の通関がスムーズにいかない等トラブル続出でしたが、JCFメディカルエンジニアチームはそんなことにはへこたれず、元気いっぱい出発しました。



第 66 次訪問団

訪問団予定

目的：ゴメリ州立病院産科での新生児支援

ゴメリ州立病院白血病プロジェクト支援

メンバー：松澤重行（信州大学医学部小児科医師）・神谷さだ子（J C F 事務局）

支援品：白血病プロジェクト医薬品

1. アルケラン	50 m g	6 個
2. シスプラチン	10 m g	40 個
3. ニムスチン	200 m g	10 個
4. ノバントロン	25 m g	30 個
5. メロペン	500 m g	60 個
6. タイセブラン	1 g	80 個
7. ゴフラン	5 m g	20 個
8. ポリグロビン	2.5 g	20 個

日付	行 動 予 定	宿 泊
11/17（日）	成田発 11:35（OS0052）→ウィーン着 16:10	ウィーン
11/18（月）	ウィーン発 03：30（OS5687）→ミンスク着 16：30 車でミンスクからゴメリへ	ゴメリ
11/19（火）	ゴメリ州立病院附属産科	ゴメリ
11/20（水）	ゴメリ州立病院附属産科	ゴメリ
11/21（木）	ゴメリ州立病院附属産科	ゴメリ
11/22（金）	小児血液がんセンター ミンスク発 17：40（OS5688）→ウィーン着 18：45	ウィーン
11/23（土）	ウィーン発 13：30（OS0051）	機内泊
11/24（日）	成田着 9：40	

第 65 次訪問団

目的：高汚染の森に囲まれたポレーシェ学校児童約 150 人の甲状腺と血液検査を行う。異常が発見された場合は、チェチェルスク地区病院、ゴメリ州立病院と連携して、再検査をし、治療のフォローアップをする。

メンバー：

- ・衣川直子（昭和大学小児科医師）
- ・安楽真紀（看護師）・国井真波（看護師）
- ・森みどり（病院勤務）・力丸邦子（主婦）
- ・神谷さだ子（J C F 事務局）

支援品：健診用医薬品・消耗品



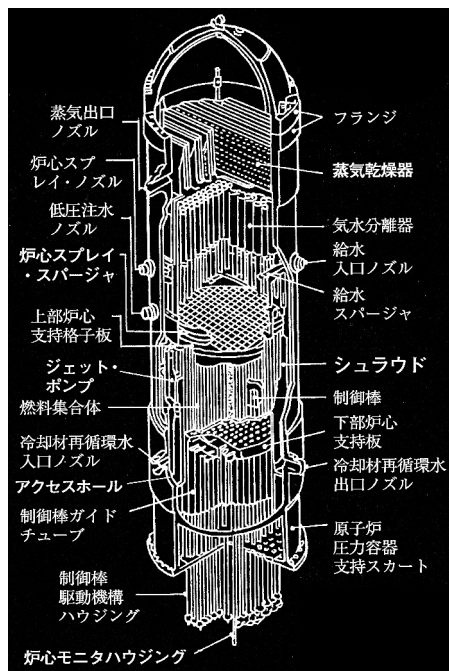
健診の打ち合わせをする（右から）国井さん、安楽さん、衣川さん

日付	行 動 予 定	宿 泊
11/11（月）	成田発 13:00（SU582）→モスクワ着 17:25 ミンスク行き列車 22：25	列車泊
11/12（火）	ミンスク着 07：27 車でミンスクからチェチェルスクへ（地区病院）	チェチェルスク
11/13（水）	終日：健康診断（ポレーシェ学校）	チェチェルスク
11/14（木）	終日：健康診断（ポレーシェ学校）	チェチェルスク
11/15（金）	ゴメリ州立病院 モスクワ行き列車 19：25	列車泊
11/16（土）	モスクワ着 09：22 モスクワ発 19：20（SU575）	機内泊
11/17（日）	成田着 9:40	

特集 2

原発トラブル隠しを考える

～茨城、刈羽村、松本からのメッセージ～



原子炉圧力容器内部にある機器

「原発事故隠しの本質」(七つ森書館)より

2002年度、JCFスタディ・ツアーは9月21日～27日。短期間ながら、チエルノブイリ原子力発電所、「ナージャの村」のゴメリ州ドゥチ村、「アレクセイと泉」のプジシチェ村、ゴメリ州立病院など盛りだくさんの日程だった。参加申し込み者は12人。皆さん、ベラルーシの子ども達や村人との交流に深い思いを寄せている方たちだ。12年で63回の訪問団を送ってきたJCF事務局も、いつになく順調に手配が進んでいた。

8月30日に東京で行った事前学習会に福井、水戸からも参加してくださった。この時点で、問題なのは帰りのエア・チケットが取れていないことだった。

エア・チケットは一ヶ月前から旅行社間での調整が始まる。

泉ツアー顛末記

2週間前に、チケットをお願いしていた旅行社から、アエロフロートのチケットに動きがない、と連絡があった。この時点からあらゆる手だてを画策した。

1週間前、申し込んで下さった皆さんに状況をお知らせした。それでも尚かつ道を開こうと、大使館からアエロフロートの支社に頼んでいた。モスクワで、本社に掛け合ってもらった。不法滞在にならないぎりぎりまで、帰国を延ばす手配も準備した。

しかし、17日、アエロフロートからの不可能の返事で、中止を決めた。

「泉ツアー」に行くために、職場や家庭で有形無形のやりくりをし、心待ちにしていた下さったみなさんがっかりされたことを思うと心が痛みます。

旅行社でも、8月より料金が下がる9月はチケット取得は難しいが、こんな事は初めてで、予測できなかったとの事でした。9・11に何か起こるのではないかと飛行機外出を控えたヒジネスマンや旅行者が9月下旬に動き始めたのではないかと原因を考えています。ヨーロッパ方面だけではなく、ハワイ・韓国便も厳しかったようです。

後日、21日に同じ飛行機でモスクワに発った方から、出発が4時間30分遅れたことや、やはり29日辺りまで、予約済みで出かけた方達が、オーバーブッキングでモスクワで足止めになった事を聞いた。

ぎりぎり出発できたとしても、多難だったね、と自らを慰めている。

だけど、事後処理の手続きをしていると、皆さんから「来年の季節の良いときにまた計画して下さい」と、逆に、事務局の心労を労って下さる暖かい言葉をいただき、恐縮しています。来年チケットも安くていい時期に、ベラルーシの村人と共に映画を観るようなツアーを企画します。皆さん、ぜひ参加して下さいね。

放射線災害に備えて地域の防災対策は？

―長野県・松本市の場合―

一昨年、長野県辰野町と長野市で放射性鉍石モナザイトが保管（？）、放置されていることが明るくなった。

本部事務局がある長野県では原発がなく、チェルノブイリ原発事故の被災地へ医療支援と交流活動をしているJCFにとつて、チェルノブイリの課題を地域に根ざしたものにしていけるのに、

いまひとつ放射線災害ということが実感されにくかった。そんな時に、身近な場所にも放射性物質がある事を思い知らされる事件だった。しかし、放射性物質管理の監督責任は文科科学省にあり、地域の消防局、保健所は独自に動けない。モナザイト放置事件によつて、長野県民は放射線災害が決して他人事ではない、もし、放射性物質の輸

送中に県内で事故があることも考えられる、と心配になった。

また、3年前のJCO臨界事故の時、東海村でたくさんの原子力関連施設がある中にいても、住宅のすぐ近くに加工工場があり、常に事故の危険性にさらされていたとは誰も思い及ばなかったと聞いた。

原子力発電所や核燃料加工施設でなくとも、医療機関や研究施設では放射性同位元素が使用されている。平和・有効利用している機関でも、もし火災が起きたらどうなるだろう。

最近とても怖いのは、いつ起きてもおかしくないと言われる東海地震だ。ここ松本でも牛伏寺断層地震が、今すぐに起こるかも知れない。

そこで、地元の防災対策はどうなっ

ているんだろう、と広域消防局と保健所の防災対策課を訪ね、話を伺った。今年度、長野県では県の災害防止条例の資料として、放射線災害に対する対策が、初めて付け加えられた。より身近な地域では、どこまで周知されているのだろうか。

10月11日、秋晴れの下、地元の小学生が消防局のはしご車を囲んで見学していた。松本広域消防局防災課で予想通りの応対が始まった。

―放射能に関しては国の管理ですからね。消防署は火災時でも事故情報に基づいて、分担、処理に務めます。実際放射性同位元素を扱っている事務所が火事になった時ですか。まず各々の事務所の監督責任者が事故把握しなければなりません。その通報によつて発動します。でも、火事の場合も、救急車もそうですが、現場の人は動揺してしまい、何がどうなっているのかわか

らないというのがほとんどです。

神谷 えつ、もしそんな時でも、防護服を着ず、飛び込んで行くんですか？

―JCOの事故の時もそうでした。お二人の作業員が亡くなられたんですが、救急隊員もかなり被曝したはずですよ。

神谷 そうですね。でもその方達の被曝については報じられませんよね。

―そう、災害時に一番怖いのは僕たちなんですよ。

神谷 それで救出した人を運ぶ時、放射線被曝は特別だと思うんですが、長野県内、この松本地域ではどこが指定病院になっているんですか？

―たぶん信大病院かと…。正確に調べてから連絡しましょう。

神谷 最近、小さな地震が頻繁にあつて恐いですね。地震の場合はどうですか？

―今でも地域消防署は、火事と救急業務で手一杯です。地震は火災、崩壊、家屋からの人命救助。大混乱になるで

しょうね。

身を挺して人命を救う消防士さんが一番危険にさらされるのだ。だからこそ、私たち市民もできることは自分で備えなければならぬ。家族や身近な人の身を守るために、日頃の心構えと準備が必要だ。

保健所では紋切り型の対応ではなく、本音の話になった。

―少し前に、ソ連の衛星が日本に降下するという情報が流れましたよね。その時、放射能が問題なので測定するよう、全国に通達が出たんです。私は断りました。いやですよ。家族と一緒に逃げます。そうでしょう？

―ある国の高官が日本に来て東京駅の地下道を通った時、言ったそうです。『日本には素晴らしい核シエルターがある。中には食堂もスーパ―もあつて、人々の避難場所にはもってこいだ』と。

神谷 すこいブラックユーモアですね。地下道が核シエルターなんて。でも一番有効ですよ。

「私達が一番怖いんですよ」という消防士さん、環境監視をする保健所担当者の「私は逃げますよ」に笑したものの、なるほどと合点。

私も一緒に逃げたい！でもどこへ、どうやって、確実な一報はどこから入手すればいい？

専門家だけに任せてはいけない。逃げたい気持ち、一番危険な最前線に向かう気持ちから、どうすればいいか、共に対策を構築していきたい。JCFは12年のチェルノブイリの経験から、提言できる資料を蓄えている。まだ自分の暮らすこの地域だけのことはなく、近隣からの避難を受け入れる場合、応援に行く場合についても、行政と共に考えたい。放射能災害にボ―ダーはない。（事務局・神谷）

一刻も早く原子力の時代に ピリオドを！

野口悦子（水戸市在住）

1999年9月30日の茨城県東海村JCO臨界事故から3年。事故は、2名の労働者の命を奪い、周辺住民や地域社会に、今なお甚大な影響を及ぼしている。

そんな中、東京電力、中部電力、東北電力の虚偽報告、事故隠しが次々と明らかになった。原子力発電が傷だらけのまま運転し続けていたこと、また、虚偽報告は、チェルノブイリ原発事故の前後にすでに始まっていたことは、強い憤りを禁じえない。当時「日本の原発は安全です」と繰り返し宣伝があったことが虚しく思い出される。

政府や電力各社、原子力関係者が

言ってきた「安全」とは何だったのだろうかと改めて考えさせられた。また、社会全体の倫理観の喪失、責任感の欠如は、止まることを知らないのだからかとも。今回の事態は本当に残念で仕方がない。

そんな時、友人に薦められて故高木仁三郎氏の遺作の一つである『原発事故はなぜくりかえすのか』（岩波新書）を読んだ。

「友へ」という最後のメッセージで「なお、樂觀できないのは、この末期症状の中で、巨大な事故や不正が原子力の世界を襲う危険でしょう（p.83）」と書いている。驚くほど現在の事態を

的確に指摘している。

70年代、80年代は事故やデータを隠蔽していた。90年代には、技術者としては行ってはならない「データの改ざん」へと変貌していったという。

「データ隠しというのは、ちよつと失敗をやってしまった、不都合をやってしまったというときに、それらを積極的に言わないで黙って隠しておくことです。――（中略）――ところが改ざんというのは、そうではありません。積極的にうそをつく。安全を立証するため、なかったことをあつたことにする。

――（中略）――虚偽報告というのは、非常に意図的な、隠蔽よりも次元の進んだ悪質行為なのです（p.149～150）」

「原子力村」と呼ばれるほど閉鎖的な中で、社会との繋がりが乏しい「村」を守る為に、多くの人が社会全体にとつての善し悪しがわからなくなっているのではないかと感じた。

現在、早くも「安全基準を甘くする」

怒り渦巻く東京電力原発現地

――今度こそ原子力政策の転換を――

武本和幸（原発反対刈羽村を守る会）

東電のトラブル隠し事件は、柏崎刈羽原発のプルサーマル実施表明直前の8月29日に公表された。この日は、住民投票結果を骨抜きにするために実施された対話集会の最終日だった。

以来、柏崎刈羽では、東京電力の炉心の重要機器―シユラウドのひび割れを放置して運転継続されている事に対する怒りが沸き起こり、停止点検要求が、反対運動のみならず、行政や議会から出された。そのためあつて、9月3日に1号機が、20日に2号機が停止された。プルサーマル計画も、9月12日、柏崎市議会と刈羽村議会の撤回

などの動きもある。悪い方向に転がる石を止めることができるのか。私たちは「まだ間に合うのか？」

それでも、今のままでは良くないと感じている人は、世界全体にたくさん存在する。視野を広くし、手を結び合い、諦めないことを自分自身にも言いさかせたい。

最後に高木さんのメッセージを記したい。

「後に残る人々が、歴史を見通す透徹した知力と、大胆に現実立ち向かう活発な行動力をもって、一刻も早く原子力の時代にピリオドをつけ、その賢明な終局に英知を結集されることを願ってやみません。私は、どこかで、必ず、その皆さまの活動を見守っていることでしょう。（p.183）」

野口悦子（茨城県水戸市在住）

86年頃から、市民運動に関わりはじめ、原発問題や沖縄の基地問題、反戦運動に取り組む。東海村の旧動燃の事故では、村内のガンマ線調査、JCO臨界事故では、仲間と共にハンガー・ストライキを行う。



写真提供・武本和幸さん

決議を受けて、県知事・市長・村長の三者会談で事前了解が撤回された。了解の前提の「安全性確保と信頼関係が損なわれた」のが理由である。

8月29日発表の29件はGEI社と東電間の不正である。保安院は、この29件のみに限定して立入調査を9月3日から5日に実施し、14日に中間報告、10月1日に「不正はケシカランが安全に問題なし」の最終報告を出した。東電も9月17日に報告書を出し経営トップを含む35人の処分を行い、幕引きを図った。不正は29件でなく、20日には東芝が関与した再循環ポンプ配管のひび割れ8件も発覚した。この件は東京電力のみならず中部電力、東北電力、日本原電、中国電力も関係していた。

さらに、9月28日には定期点検時に日立が受注した格納容器の気密試験データが偽装されていたことが発覚し、保安院は30日に福島第1、第2の全原発10基の運転開始時からの記録の

提出命令を出した。

29件と8件は自主検査の記録改ざん・ねつ造であるが、格納容器気密試験は定期点検の試験記録の偽装で、より悪質である。いずれも、長年、国と電力会社のなれ合いの中で続けられてきたことである。

86年チェルノブイリ事故で、「安全文化」が提唱された。95年もんじゅ、97年東海再処理工場火災爆発と原発配管の溶接焼鈍記録の改ざんねつ造、98年使用済み燃料輸送容器の放射線遮蔽材製造記録の改ざんねつ造、99年JCOと大事故・事件が続いた。事故のたびに事故隠しや信じられない不正が明らかになった。記録の改ざんねつ造の多くは、内部告発で判明したものである。こうした警鐘は原子力政策の転換に生かされなかった。

今回の事件で、東京電力に原子力発電所を運転する資格も能力もないこと、そして国や自治体に住民の安全を

守る能力がないことが明白となった。電力会社は、需要低迷・料金値下げと電力自由化で、安全無視・経営優先とならざるを得ない。そのために、「維持基準」を導入し、損傷を放置して運転強行を画策している。「維持基準」導入は、交通違反に例えるならば、スピード違反の常習者が、「違反をするのは制限速度があるからだ、速度規制を廃止せよ」と主張しているに等しい。規制廃止は重大事故を招くことになる。

プルサーマル計画の挫折で核燃料サイクル政策の破綻は明白となった。原子力政策の転換ができなければ、より深刻な事故が起こりかねない。今は原子力政策の転換・脱原発社会の実現の好機である。

(2002年10月8日)

報道のかげに隠された

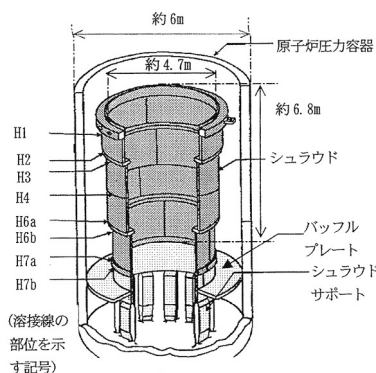
真の問題点の把握を！

三輪 浩 (松本在住)

相次ぐ「トラブル隠し」の発覚

8月下旬以来、原子力発電所のいわゆる「トラブル隠し」関連の記事が新聞に載らない日はないという状況が1ヶ月以上も続き、「炉心シユラウド」から「再循環ポンプ配管」「格納容器の気密不足データ操作」へ、また、東京電力から沸騰水型(BWR)原発を抱える他の電力会社へと拡大するばかりである。さらには、原子力安全・保安院には何件かの新規の内部告発が寄せられていると報じられている。東京電力では最新の数基を除くほとんど全ての原発について欠陥が放置され未報告だったり、記録を改竄して「予防保

全」の名目で損傷部分の交換・修理が行われていたとすることで背筋の寒くなる思いである。東海地震を目前に全原子炉の運転差し止め裁判が進行中の中部電力浜岡原発は、事故停止中の1・2号機と定検中の4号機に加えて3号機も関連部分の再点検のための停止に追い込まれ、思いがけずも全号機の完全停止状態が実現した。幸い原発のシェアが比較的小さい中部電力はそれでも供給に支障ないが、東京電力はやりくりの見通しが立たず、止めるに止められぬ事情にある。これほど多くの原発が一斉に停止するのは、1979年の米国スリーマイル島原発事故の際に、国内の加圧水型(PWR)原発の総点



シユラウドの概要

「原発事故隠しの本質」(七つ森書館)より

検が行われて以来のことである。

一連の報道への疑問

一連の報道は、プルサーマル問題で揺れていた柏崎刈羽3号機のシュラウドひび割れの東電発表（8月23日）に始まった。前年の福島第二原発でのひび割れ報告を受けた原子力安全・保安院からの、同型の原発に対する定期点検時の調査指示に応じたものとされた。私は一週間後の展開にまでは想いが至らなかったが、これでプルサーマルは当分先に延びる”と思ったものの、その後の新聞等での解説には幾つかの疑問を感じていた。一つは、福島古の古い原発でのシュラウドのひび割れの多発やそれが進行して交換に至った話は何度も聞いていたし、その主な原因が「応力腐食割れ」ということで、運転開始後二十年以上も経過すれば、特に溶接部分を中心に腐食割れが進むのは必然の成りゆきと理解していた

が、問題の柏崎刈羽3号機は十年足らずの若い原発なのに何故？という疑問である。その点を指摘した問題提起の記事が見られないことを不思議に思っていた。しかし、今から考えれば、福島原発でも実は公式発表の何年も前からひび割れは発見されていたのであつて、事情を知っている関係者にとっては特に新しい問題ではなかったことになろうか。

もう一つは、シュラウドの役割について、炉内の冷却水の流れを分離し整えると簡単な解説に終わっていて、その後の展開の報道でも、指摘された多くのケースについて安全上は心配ないが報告を怠ったのが問題だとされてきている。シュラウドは燃料集合体など炉内の主要構造物を囲んでそれらを正しい位置に保持しているの、仮に地震などの衝撃で溶接部のひび割れが全周に及んでシュラウドの上部と下部がずれるようなことになれば大事故に発

展しかねない重要な部分だという視点からの説明が見られない。

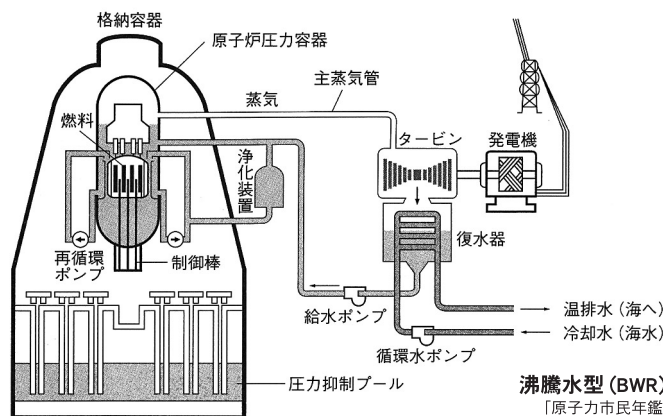
電力会社に原発を任せられるのか

次の週の8月29日に、国（原子力安全・保安院）と東京電力が相前後して、長期にわたる「ドラブル隠し」を公表した。このときはGE社が指摘した29項目を中心に、国は2年以上も前に告発（法令上は申告）を受けていたこと、東電は点検データの書き換えまでして虚偽の報告をしたり、国の検査の際に損傷を覆い隠したりしたこと、そして国からの照会には今年の春頃までは告発内容を否定しながら「予防保全」として修理や交換を行ってきたこと、国が昨秋になってGE社に直接問い合わせた結果ようやく実態が見えてきたこと、東電は今年5月に社内の調査委員会を設けて8月に調査結果を国に報告したこと、などが明るみに出た。その後次々と「損傷」「隠蔽」「記録改竄」

が小出しに追加されて、今では一般の人々は言うに及ばず、おそらく報道関係者にも整理がつかないほどの情報が溜まってしまった。

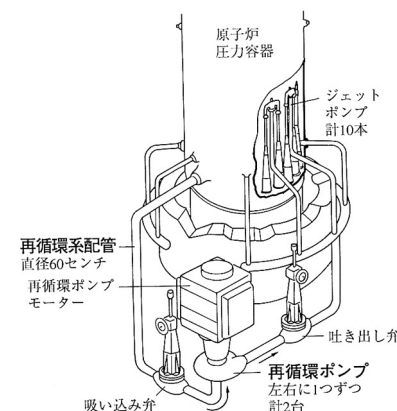
東電以外の原発も含めてシュラウド等の原子炉内での新たな「ひび割れ」「ひび徴候」の発見がなお続いている上に、多くの「再循環系配管」のひびが同様に国に報告されぬままに取り替えられたり継続使用されていることも発覚した。再循環ポンプは沸騰水型原発の安全性確保の上でのアキレス腱とも言われてきた。配管は直径60〜70センチ、肉厚4センチ程度の巨大なもので、ここからの大量の冷却水洩れは起こってはならない大事故である。断熱保温材が厚く巻かれているため、外からの直接の点検は容易でないことから、今後詳しく調べることによってひび等の発見は次々と出てくると思われる。

それにも増して衝撃を受け怒りを覚



沸騰水型(BWR)原発の概念図

「原子力市民年鑑 2002」(七つ森書館) より



「原発事故隠しの本質」(七つ森書館) より

えたのは、福島第一原発1号機の定期点検の際に、原子炉格納容器の気密保持テストで気密性不足のデータをこまかすために秘かに空気を注入して気圧操作を行ったという疑惑である。これが事実であれば、過失とか判断の甘さを超えて悪意に満ちた犯罪であり、もはや電力会社に原発の運転を任せるわけにはいくまい。

■国と東電の発表は筋書き通り？

しかし、このような公式の経過とは別に、国は東京電力や検査担当のGE社と密接に連絡をとりながら、公表のタイミングをはかりつつ情報操作をしてきたものと疑っている。経済産業省の中に置かれている原子力安全・保安院は、本来期待されるべき中立の立場にはなく、原子力政策そのものの議論にまで及びかねない今回の事件は、できるだけブルサーマル実施に影響を与えずに発表したかったに違いない。と

ころが、焦点の柏崎刈羽3号にもシユラウド損傷があることになっては、この際ブルサーマルの実施は当然あきらめざるを得ず、トラブル隠し問題の早期決着が得策と判断したものである。国と東電は公表する内容を、29のどの項目を不適切と分類して発表するかに至るまですり合わせをし、東電内部でどのように関係者処分を決めるか、保安院は東電に原発の停止は指示せず原子炉等規制法や電気事業法に基づく告発や処分を行わない、などの筋書きを予め固めてからの発表であったと推測する。規制当局と規制される側とのこのような関係は、最近目立って増えている大企業の違法脱法事件と軌を一にするものである。首相訪朝のニュースで溢れた9月17日までのわずかな間に保安院も東電もすばやく調査報告書をまとめることができたのは、下準備あつての8月末公表だったからとみてよい。

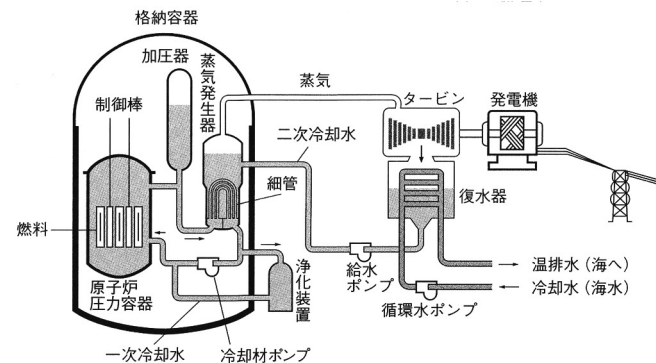
それにしても、何十件にも達する不正行為の実行者が東電の社内調査では全く特定できていないというのは信じ難いことで、実名は出さぬまでもどのような指揮系統で改竄・隠蔽が行われたのが明らかにしなければ納得はできない。“個別の事案の実行者個人に責任を求めるべきでない”として、社長以下発電所長までの幹部が監督責任をとるだけで事件に蓋をしてしまう姿勢では、いくら再発防止を唱えても口先だけのものとししか聞こえない。

■日本の原子力の技術レベル

今回の「事件」を通して、日本の原子力技術のお粗末さにあらためて不安が増大した。日本の原子力推進体制の閉鎖性は今から指摘されていたことであり、東電自身も「トラブル隠し」が長年慣習化されてきた一因に原子力部門の閉鎖性を挙げ、人事交流を含む閉鎖性の打破を再発防止策の要の一つ

としている。しかし、それは原子力に関わるものの責任とともに、“原子力は極めて専門的で一般の人にはわかりにくい”とする専門家任せの周囲の態度にも問題があると私は思ってきた。また、一方では、よく知られているように、原発の保守点検作業はもっぱら下請け労働者のヒバクの上に支えられている現実があり、現場の技術陣は手薄である。とすると、運転や保守管理に責任を持つべき原子力部門の技術者達の職業倫理は、自分達が預かっている装置の履歴や現状を熟知して見守っていく“職人氣質”というよりは、何年かで異動しながらマニュアルに従って仕事を進めている“サラリーマン感覚”しか育たないのではという心配を抱いてきた。

原発の定期検査の技術面を、東電でもなければ、メーカーの日立・東芝でもなく、GEの関連会社が担っていることを初めて認識した。今回の発表の



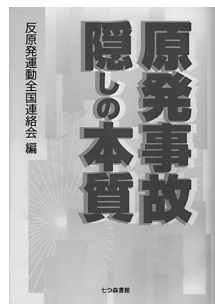
加圧水型(PWR) 原発の概念図

「原子力市民年鑑 2002」(七つ森書館)より

「原発事故隠しの本質」

編者・反原発運動全国連絡会
発行・七つ森書館
定価・800円＋税

東電の原発トラブル隠しを受け、緊急出版された。脱原発の未来のために、いま私たちが何をすべきか考えるためのテキスト。



中には、GE社の検査で蒸気乾燥器のひび割れが指摘されたが同社の翌年の検査でその傷が見当たらず、詳しく調べたら180度の反対側に同様の傷が見つかった、部品（とはいえ巨大な）が正しい向きとは逆に取り付けられていたことがわかった、という笑い話では済ませないエピソードも含まれていると聞く。また、何年かひびの存在を隠した後に取り替えた幾つものシュラウドについて、損傷状況の詳細な分析をしないまま細断廃棄してしまったという。証拠隠滅を優先させたのであろうが、失敗や不具合の原因を確認して教訓とし後の進歩に資するという技術の基本を放棄した非常識きわまる措置であった。

原子力発電所に常駐する国の監督官や定期検査に立ち会う検査官が長年にわたるこれらの不正を見抜けなかったことで、チェック側の技術力にも信頼は置けない。その程度の技術力と技術

倫理の日本の原子力業界がどうしてアジア諸国へ原発を輸出したり技術協力したりできるのか大いに疑問を感じている。

原子力政策転換のチャンス

それだけでなくとも信頼性が揺らいでいた原子力政策は、最大手の東京電力のスクランダルに端を発した原発管理の実態が判明して、抜本的な見直しは避けられない。高速増殖炉とプルサーマルの頓挫は、再処理によるプルトリウム回収の核燃料サイクル計画の行き詰まりを意味するが、安全管理と国のチェック体制の杜撰さは原子力発電にとって致命的とも言えよう。再処理工場のホット試験を間近に控えた今こそ原子力推進を転換する大きなチャンスではなからうか。放射性廃棄物を増やし放射能汚染を広げる前進ではますます泥沼の深みに入っていくばかりである。

技術力を強化しなければ安全な原子力発電の継続は覚束ないし、直ちに原発から撤退しても放射性廃棄物の後始末からは免れ得ない。原子力政策がどの方向に向くにせよ優れた原子力技術の継承と多数の技術者の育成は不可欠である。それにもかかわらず、ほぼ全ての大学が原子力の将来に見切りをつけて原子力工学科等を廃止転換してしまった現在、その役割の担い手がどこにもないという状況である。亡くなった高木仁三郎さんがいつも憂えていた問題であり、これまで国策として原子力を進めてきた政府・国会こそが真剣に取り組むべき課題である。

三輪 浩

・信州大学名誉教授・物理学
・FDAN運営委員
・市民エネルギー研究所
・長野資料室運営委員

原子力資料情報室公開研究会

許すな！東京電力の事故隠し 記録改竄事件の深層をさぐる

東京電力による原発トラブル隠しを受けて、9月19日に東京・渋谷勤労福祉会館で、原子力資料情報室第48回公開研究会「許すな！東京電力の事故隠し 記録改竄事件の深層をさぐる」が開催された。会場は立ち見の参加者であるほどで、今度の事件に対する関心の高さがうかがえた。

最初に、原子力資料情報室の上澤千尋さんの報告があり、今回の事故隠しでの問題点として、国や東電の「不正は悪かったが安全上は問題ない」という安全意識の欠如（安全上問題ないといえるのは検査が正規の手順で行われ、記録に不正がないことが前提）、シュラウドに対する安全評価の甘い想

定（ひび割れを抱えたまま運転すると給水喪失など他の事故時に事故を拡大させる潜在的な危険性がある）、などの問題点を指摘した。まとめとして、損傷したシュラウドを交換したりせず（労働者被曝の増大）にドイツのように廃炉にする道を選ぶべき。老朽化対策やコスト削減のために、現在の技術基準を緩めるような「維持基準」は導入すべきでない。東電、GE、保安院、日立などの事故隠し体質が明らかになったことなどを述べられた。

後半は、科学ライターで元原発設計技師をされていた田中三彦さんの報告があった。田中さんは原発メーカーに勤務していたときに、原子炉圧力容器

の製造中に違法な作業が行われ、そのことを告発した経験から、今回の事件について語られた。データ捏造や隠蔽は日常茶飯事で、今回発覚したものは冰山の一角である。国、電力会社、メーカーのなれ合い体質で事故隠しが起こること。欠陥の存在を認めない「いつも新品」を求めてきた国の危険な幻想があり、一見安全な施策に見えるが、発見された欠陥を隠蔽する可能性をはらみ、実際には非常に危険であることなどを述べられた。最後に、今まで原発の供用検査基準のような法整備を怠ってきた国を批判した上で、早急に法整備を実施すべきであるが、無条件の法整備は非常に危険であり、検査データなど関連書類の無条件全面情報公開することや、告発者保護のための法的環境整備を同時にする必要があると提言された。

（事務局・高橋）



市民科学者として62年の生涯を疾走した高木仁三郎さんの残した、たくさんの論文、著書、エッセイなど、公刊された著作のすべてを収めるほか、新聞・雑誌に掲載した文章などが収録されています。また、未公開資料も収録されます。

七つ森書館から
「高木仁三郎著作集」
(全12巻) が刊行中！

「高木仁三郎著作集」

(全12巻)

各巻定価 6500円＋税
発行 七つ森書館

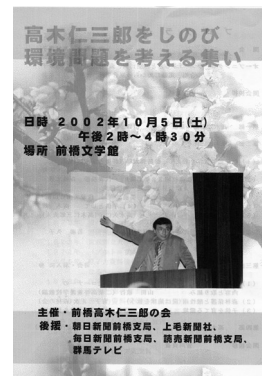
TEL 03-3818-9311
FAX 03-3818-9312
<http://www.pen.co.jp>

- *第1巻 脱原発へ歩み出すⅠ
- *第2巻 脱原発へ歩み出すⅡ
- *第3巻 脱原発へ歩み出すⅢ
- *第4巻 プルトーニンの火
- *第5巻 核燃料サイクル施設批判
- *第6巻 核の時代／エネルギー
- *第7巻 市民科学者として生きるⅠ
- *第8巻 市民科学者として生きるⅡ
- *第9巻 市民科学者として生きるⅢ
- *第10巻 鳥たちの舞うとき
- *第11巻 子どもたちの未来
- *第12巻 論集

(*既刊)

なお、ボランティアルームには、「グランド・ゼロ」のブックレビューで紹介した本や核・原発関連図書、環境問題関連図書、NGO・NPO関連の図書や資料がありますので、お気軽にご利用下さい。

松本市在住の三輪浩さんが、JCF事務局に「高木仁三郎著作集」を寄贈してくださいました。既刊の本はJCF事務局のボランティアルームにありますので、ご覧になりたい方は、JCF事務局までお越し下さい。



高木仁三郎さんを偲ぶ会 出身地の前橋で開催

去る10月5日、群馬県前橋市の前橋文学館で、『高木仁三郎をしのび 環境問題を考える集い』が開催された。高木仁三郎さんが2000年10月8日に亡くなられて2年経ち、高木さんの生まれ故郷である前橋で初めての偲ぶ会であった。高木さんの高校時代の同窓生が中心となつてつくつた「前橋高木仁三郎の会」の主催で行われた。

第一部では、原子力資料情報室の共同代表・山口幸夫さんが、高木さんの業績を核科学者、また市民科学者としての業績を語られました。第二部では、高木さんを偲んで、高木さんの同窓生の方々、高木さんのお姉さんの佐藤香さん、息子さんの高木周さん、高木さんのおつれあいの高木久仁子さんが、それぞれの高木さんへの思いを語られた。また、第三部として、地元で環境問題に取り組んでいる「森林（やま）の会」の宮下正次さんが「森林保護と

酸性雨（炭は地球を救う）」と題して発表されました。その他にもコーラスや創作舞踊などもあり、盛り沢山の内容でした。

高木さんの遺志を引き継ぎ、今後も「前橋高木仁三郎の会」では、核問題、環境問題などに取り組む活動が続けるということ です。

(事務局・高橋)



10月6日付 朝日新聞（群馬版）記事

JCF って何だろう

谷田部裕子（ナージャの輪）



「JCF って何？」と問われて答える時、いつも私のお腹の底にふわりと暖かいものが広がります。

それは、JCF に関わる大勢の優しい人々の笑顔や真摯な眼差しが次々と脳裏に浮かぶからです。この三年間、お会いできてよかったと感謝と喜びに満たされる出会いの連続でした。

JCF とは、JCO 臨界事故の被曝体験が契機となった出会いでした。こちらの地域では未だ解決されない様々な問題を抱えています。健康被害を訴える人々が被害を認定されず、治療費の補償も受けられません。精神的な不安が消えない人々もいます。被害者の会ではこの9月、民事訴訟提訴を余儀

なくされました。私達にとって、困難な状況のなかでの心通う方達との交流は大きな支えでした。

地縁血縁原子力縁と、人の縁は様々あるけれど、JCF 縁は真心でつながる縁です。その特長は、全国各地にある、人のネットワークと共振し合い増幅する事にあります。

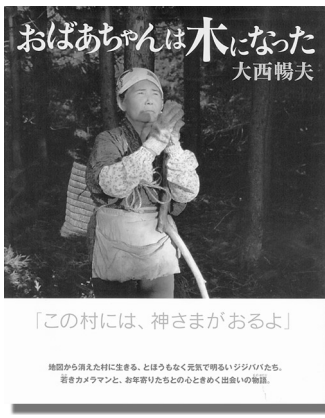
9月に、長野県川中島にある『ひとミュージアム上野誠版画館』で開催された、大西暢夫写真展もまさにそうでした。大西さんは本橋成一氏のお弟子さんのカメラマン、チエルノブイリにも同行して、映画『ナージャの村』のスチール撮影をし、グループ『ナージャの風』のスライド制作の際には、写真選びは勿論の事、精神的な所でも言葉少なにして暖かく強くサポートして下さいました。その大西さんが長年に渡り手がけている、ダムに沈む村、徳山村に生きるお年寄たちの写真集『おばあちゃんは木になった』（クリスマス

プレゼントに是非お勧めです。じんと来ます）の写真展が、上野誠版画館で主催され、『ナージャ希望の村』のスライド上映の場を与えていただいて、行って参りました。

JCF は、特製ボルシチとスライドを持つての参加です。私をつなげてくれたのはJCF 縁者の櫻井さん、その依頼電話の一言、「地元の人がお仲間運営している美術館なんですよ」に訪問を決意しました。館内に足を踏み

入れると、満館のギョーザの匂い。カメラマンであるはずの大西氏が手にしているのは、来館者をもてなすための菜ばしなでした。材料は地場在来種の小麦粉。水の事や光発電機に取り組んでいる人々もいらして、皆喜んで楽しみに集って来ているムード。いいなアと肩がほぐれる思いでした。それもそのはず、上野駅ガード下で被バク者と出会って以来版画に続けた上野誠氏の存在を知り、自邸を改築して美術館にした館長さんとその縁の方々でした。

人には、心をワシづかみにされる体験をして、その日までの自分と同じではなくなることがあるのだと、我身ふり返りつつ、共感しました。水を飲んでもいいのか、畑の野菜を食べてもいいのか、どうしていいのかわからなかったJCOの事故の時を思いながら、それぞれに大切にしたい何かを守ろうとしていらつしやる皆さんと共に



ポプラ社・定価1300円＋税



左から大西さん、吉田さん、谷田部さん

に、今、自分がいるところのかけがえのなさを語り合いました。この日スライドを観た戸隠村の加藤さんという女の人が、自宅で友人親子を招いて上映会をしたいと申し出てくださり、手渡しのつながりを感じつつ帰宅しました。

忘れないために2

宮尾 彰

No.10

―二つの作品展から―

人間は「内部」という言葉に憧れて内部に至ることは決してできない、「孤独」という言葉に引かれて孤独に至ることはできない、ある言い難い仕事と労作との過程の中に、それはある名付け難いものとして訪れてくる。

森 有正

「私にとってひどく難しい点は、これまでの歳月に集めたこの無尽蔵にも思える大量の材料に関することにある。彫刻の仕事と、見つけてきた物体を使う仕事と、全く反対のものだということを人は理解できない。…」

セカールは1992年7月7日の日記をこう書き出している。その言葉どおり、個展のカタログに挟まれた数葉の写真を見ると、アトリエの棚には長年懸けて作家自身が創作の傍ら街角で収集したという建築物の木片や機械部品の金属片、釘や針金等あらゆる廃材が丁寧に整理されて所狭しと並べられている。

「物体、オブジェ、少なくとも外に向けては物質的である多くの発見物は、みなおしなべて、あたかも生き物であるかのように（とはいえ私の感覚では本当にそうなのだ）、私の気を惹こうとしてくる。みな全てを一度に扱ってやることはできないので、ほとんどのものは最後に置いておいたところに放ってお



写真提供 本橋成一



写真提供 本橋成一

くより仕方がない。…そういうとき私はこんなふうに言いきかせている気になる。我慢しなさい。まだだめだ。でもいつかはおまえの番が回ってくるから。」晩年、作家は夥しい数におよぶ異形な造形作品を制作した。静かに動かない端正なフォルムの内に、意表を衝くような廃物が安らいだ沈黙を醸して佇む「箱」のシリーズである。

ちょうど障子の棧に使われる程の棒を四本、一尺足らずの長さに切る。それらを四方に柱のように立て並べて空間を切る。そこに同様の何本かを組み足し、柱に見立てた四本をつなぐことによって床と天井を持った「部屋」が創られる。さらに幾重にも格子状に棒を組み合わせると、縦横に水平と垂直の直線が交差するより稠密な空間が生まれる。そしてこの「部屋」の中心に、色褪せた使いふるしの板や、蝶番を外した痕の残る木片等が、指物師さんからの周到な手仕事によって労わり深く据えられるのだ。夫人によれば、作品の制作が始められるまでに膨大な時間が素材の選別に費やされたという。

彼は生涯を通じて自らの経た遍歴については寡黙であった。自由を封印された国家という「箱」の中で、己に残された表現への道を慎み深く歩み続けた。やがて異国の地にアトリエを移す。ひたむきに創作する年月の果てに、その最期の作品には「証言」や「告発」を超えて、極み無く深められた精神だけが現れている。

彫刻の真の「美」は表面的な外形ではない。

「自我」の内部の力が対象に迫って生む充実した「空間」力にある。

(高田博厚)

ジーマの ロシア小話

やっと新しい発見！ロシアの魚類学者は、(溺れそうな) 人間を救うイルカの叫び声を解明した。それは「貴様！うるさい！」だった。

結婚しようと思った男は、自分に惚れ込んだ娘 3 人の内、だれをめとるのか、手間取った。最終的にいずれにも 5000 ドルずつ渡して、その資金の用途を調べることにした。

一人目の娘は高価な服、最高の化粧品を買ったり、エリートの美容室へ行ったり、つまり理想的に見えるために全力をつくした。すると、男に「私は貴方を愛している。貴方にはこの町でもっとも素敵な奥さんがいると、誰にも知ってもらいたい。」と言った。

2 人目は将来の夫に全部使った。つまり新しい洋服、ワイシャツ、自動車道具などを買って、「貴方は私にとって一番大事なものです。だから私は全部貴方の為に費やした」と言った。

3 人目の娘は 5000 ドルの資金を回転し、さらに 5000 ドル儲け、全額を男に戻した。「貴方を愛しているので、私が知恵もあり、節約もあると見せようと思ったただけだ」と言った。

男はまた考えて…そしてやっともっとも胸の大きい娘と結婚することにした。

携帯電話というのは、男たちが争うものの中で、そのサイズの小ささを争う唯一のものである。



——ストレリツォフ・ドミートリー
さんよりのアネクドット——

奥さんといっしょにイルカと遊ぶジーマさん、さてこのイルカは何と言ってるかしら ………



АНЕКДОТ



◆ Наконец-то! Российские ихтиологи расшифровали крик дельфина, спасающего человека: "Отцепись",

◆ Решивший жениться мужчина долго думал, какую из трех влюбленных в него девушек взять в жены. Он решил каждой дать по 5000 долларов и выяснить, как они ими будут распоряжаться.

Первая накупила дорогой одежды, лучшей косметики, сходила в элитный салон красоты - вообще, сделала все, чтобы выглядеть идеально, и сказала: "Я очень люблю тебя и хочу, чтобы все знали, что у тебя самая красивая жена в городе".

Вторая истратила все деньги на своего потенциального мужа, купив ему новые костюмы, рубашки, инструменты для автомобиля, и сказала: "Ты - самое главное для меня, поэтому я истратила на тебя все деньги".

Третья пустила 5000 долларов в оборот, заработала еще 5000 и все вернула мужчине: "Я очень люблю тебя. Я сделала это, чтобы ты понял, что я умна и нерасточительна". Мужчина подумал - и женился на той, у которой грудь была больше.

◆ Сотовый телефон - единственная вещь, которой мужчины меряются, у кого меньше.

振替用紙のメッセージから



◎「アレクセイと泉」を観ました。ベラルーシに高校生が4月に行きました。「コカリナ」という楽器が虹のかけはしになったようです。(長野県)

◎わずかですが子供達のために役立てて下さい。(宮城県)

◎大谷パン屋さんで一緒にした者です。応援します。(石川県)

◎友人の雑木林のパンやさんの大谷章子さんより冊子を読ませて頂きました。以前より魅かれていた山尾三省さんの遺言もはからずも読むことができて感激でした。重く心に残りました。(石川県)

◎先日行われた中野ZEROホールでの「アレクセイと泉」の上映会で松本近隣村に生まれ育ちながら、初めてJCFの存在を知りました。何を祈っているかわからないほど原発のことを知りませんが、何か力になればと思っています。(東京都)

◎他に何かお手伝いがあれば連絡下さい。(熊本県)

◎「アレクセイと泉」を観せていただきました。子どもたちの尊い命をそして笑顔に祈りにのせて。(神奈川県)

◎被災地のこどもさんからクリスマスカードが届いた時、胸がじい〜んといったしました。(長野県)

◎世界の平和を願って。(宮城県)

◎寄付先を広げてしまったのと収入減でごめんなさい。金額・回数が減ってしまってます。(東京都)

◎未来に渡って人々に不安を落とす原発事故。勇気の中で生まれた大切な生命。元気に大きくなってほしい。(長野県)

◎79才の年金生活者です、あれにもこれにも出したいけど。(大阪府)

◎自己中心のように思いますが自分が大切と思う時本場の平和が訪れるような気がします。わずかですがお働きの片隅に加えて下さい。(埼玉県)

◎臨界事故から3年。「風化」させないため、チェルノブイリを忘れないよう、わずかですがカンパします。(茨城県)

◎少ないですが、よろしく願います。(大阪府)

◎「ランドゼロ」にはいつも元気づけられます。そして、本当にすごいことをしている人たちがいると心がふるえます。どうぞ最後のひとりにまで検診の機会を与えて下さい。そのために微力ながら仲間入りをさせてもらいます。(長野県)

◎心ばかりの寄付ですがよろしく願います。(京都府)

◎「アレクセイと泉」用事があつて観られず残念でした。(長野県)

◎少額ですがお役に立てていただければうれしいです。新しい命が幸せでありますように!! (愛知県)

◎とうとう年金生活者になってしまいました。ランドゼロ53号ありがとうございます。

ございました。来年の「世界水フォーラム」に「アレクセイと泉」をなんとかつなげたいと健闘中です。(京都府)

◎平和の集まりからの追加カンパです。(大分県)

◎ありがとうございます。いつもいつも活動に力を得ています。私たちも別の分野で基金に関係する仕事をしていきます。(大阪府)

◎小さな、でも、おおきな未来あるいのちに、心ばかりを。(岐阜県)

◎気持ちばかりですが、できる時にできる範囲で、長く続けられれば、と思っています。(長野県)

◎ランドゼロのページの中から「生きる」その思いが、しみじみと、底の方から伝わってきます。(神奈川県)

◎IコースかIIコースか決めかねますのでよろしく。(京都府)

◎日本が二の舞にならぬ内に原発廃止になることを願っています。私達のできることを考えている者です。

◎いつも会報をありがとうございます。ささやかなお金ですが、必要とされているところに届けていただけたことを感謝しております。(神奈川県)

◎これまで支援させていただいた妻の遺志により妻の名前で寄付させていただきます。(東京都)

◎冊子をいつもいただき、JCFスタッフや現地の病院の方々の息の永い病とのたたかきに頭が下がります。日本への原爆投下や、これらの事故、人類は何回もこの悲しみを繰り返すのでしょうか。(奈良県)

◎スタディツアーの時会えるのが楽しみです。この前の上映会も大成功で良かった！お役に立てることがあったら何でも言ってください。(青森県)

◎気持ちばかり送らせていただきます。みんな守り守られる関係が気持ちいいですネ。(石川県)

◎賛助会費送ります。事務局の皆さん
ご苦勞様です。頑張つて下さい。

(群馬県)

◎少額ですが、よろしくお願い致します。

(千葉県)

◎少しですが役立てて下さい。皆様の
活動を心から支援しています。

(岐阜県)

◎ささやかですみません。

(兵庫県)

◎あたらしいのちへのいのりをこめ
て。

(長野県)

◎心ばかりですが、お役立て下さい。

(京都府)

◎東電原発のトラブル隠しが発覚しま
した。チェルノブイリの悲劇、ヒトゴ
トではありませんね。

(東京都)

◎子どもたちのために。

(石川県)

◎一人でも多くの赤ちゃんが誕生でき
ることを願つてやみません。(埼玉県)
◎入金先を指定できません。いつもG
Zをお送りいただく通信費とわずかば
かりお礼です。やがて本格的に参加し

たいと思ひながら…。

(島根県)

◎ナージャやアレクセイ達のために役
立てて下さい。

(宮城県)

◎少なくて恥ずかしいです。匿名でお
願ひします。

(山梨県)



◎「アレクセイと泉」観ました。感想
をいいます。私たちの時間の使い方っ
てどうなんだろう。いつか是非チェル
ノブイリへ行きたいです。アレクセイ
の誕生日にお母さんが「お嫁さん」の
話をした時。アレクセイがいろいろと
言つたのを観て、障害者の女性に対す
るアキラメを感じた。ハリウッドに出
てくるロシア人像是ウソパチだと判つ
た。緊張した画面がすごいと思つた。
(事務局に届いた会員さんからのながきより)



アレクセイと泉

Алексей и Крыница

本当の豊かさとは……

—長野友の会上映会(10月5日)アンケート—

◎「電気と水と食べ物売
り買ひするものでない」と
いう監督のお話。全くその
通りです。こういう考え方がどん
ん広がって空気・水・食べ物大切に大
切に思う人々が増えてほしいと思いま
す。音楽がすばらしく、映画をいつそ
う良いものにしていました。

◎両親から、どんな時代がきても生き
ること、それは自然からものを教わる
ことと思ひ出しながら新たな感動を受
けました。

◎現代の今の世の中に、世界のどこか
に、いまだに自給自足の生活をしてい
る人たちがいることを知ったことが、
私の考え方や価値観を改めて考えなお
す、みつめなおす機会になりました。
水を意識して生活するようになりました

た。放射能は目に見えず、においもせ
ず、わからないものでおそろしい。私
が放射能地域に住んでいたとしたら
もつとなげやりで、うつ病的になつてし
まうと思います。

◎自給自足95%という生活でゆつた
り、生きている。被害にあつた人達
から学ぶことがたくさんあつた。「自
分達は本来の生活にもどして行く時に
なつてきている」という監督の言葉に
共感させていただいた。

◎アレクセイの素朴さにひかれた。泉
のことを想像では森の中の神秘的なと
ころにあるのかと思つていましたが、
生活感のある、生き生きとした命の素
という感じを受け、すごく力強いいき
いきとした泉としてとらえられた。「か
りた水をお返し出来ないから、ここか

らはなれられない」というおばあさん
たちの生き様にも感動しました。

◎水が命を育んでいる。今、見えなく
なっている大地の恵みを、この映画に
よつて自然の偉大さ、それを汚してい
る人間の罪を、あの美しい映像からひ
たひたと深く考えさせられました。

◎友人に誘われて訳もわからず来てし
まいましたが、日本より豊かな暮らし
をしている方々を見てうらやましくな
りました。昔、いやいややっていた薪
割り思い出しましたが、今、すごく
やりたくなりました。何がほんとうの
豊かさなのか、考えさせられました。

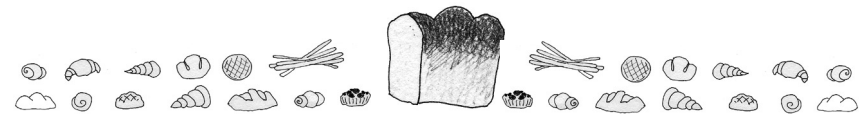
◎情景がなつかしく心洗われるもので
す。けれどこの美しい地が汚染されて
いる恐ろしさを思う時、日本の原発は
大丈夫か、これ以上は増やしてはいけ
ない不夜城の日本を変える方向を考え
るべきと思います。自分達の幸せを事
故のために立ちのかなければならない
ということに憤りを感じました。



ファスレーチャ：出会い

ВСТРЕЧА

本物の黒パンを探して.....



JCFイベントでボルシチを作る度に、「こんな時に本物の黒パンがあればね」というのが事務局の口癖でした。今までいろいろ探しても松本では勿論、東京でもなかなか本物の黒パンにはめぐり会えませんでした。

ある時神谷さんが、横浜に日本で唯一現地から材料を取り寄せて本場の黒パンを作るパン屋さんがあるらしいという情報をキャッチ、半信半疑で取り寄せてみました。ところがこの黒パン、現地に50回以上通う神谷さんも太鼓判を押す美味しさ、しかもロシア大使館御用達らしいことも判明、独特の酸味とかみしめる毎に味わい深い黒パンは事務局の昼食にすっかり定着しました。

そして黒パンのお店サンドリヨンのご主人多田井さんから、JCFのセミナーやイベント時に委託販売するなら、売上の一部をJCFに寄付して下さるとありがたいご提案を頂きま

した。イベント会場でも、パンの人気はすばらしくいつも完売、多田井さんは黒パンのお話しになるとやまらな止まらないという感じで、受話器を通じて多田井さんの黒パンへの情熱と自信がびんびんと伝わってきます。

黒パンと多田井さんの物語をもっと聞いてみたい、そして日本で本物の黒パンのできる秘密をさぐってみたいと、横浜に出かけることにしました。

サンドリヨンのお店はJR東神奈川駅を降りてすぐ、店内にはマトリョーシカや民芸品、ロマノフ王朝伝統磁器などが飾られ、おなじみの黒パンや天然酵母パン、ロシアのお祝い事に作られるというブランデーに漬け込んだドライフルーツやナッツがずしりのシンデレラパン、ピロシキ等がずらりと並び、レジの向こうでにこにこしているのが多田井さんでした。さっそくお話しを伺いました。

多田井さんとロシアの最初の出会い



サッカーW杯のロシア代表チームのために黒パンを焼き、キャンプ地清水市から記念のTシャツを贈られた話をされる、多田井勇一さん。

は中学の時に聞いたモスクワ放送、「あの、♪たたたん、たたたたたん、こちらモスクワ放送（多田井さんはうっとり）とハミングされました」というのを聞くと、胸がときめきました」。

「その後恩師が日ソ東欧貿易会の事務局長になったのが縁で、ますますロシアの風土や人間関係にあこがれ、平成3年からロシア貿易専門商社の極東シベリア担当になり、日本と現地を行ったり来たりするようになりました。その頃現地では黒パンとスープしか食べるものがなく、最初は『こんなまずいもの』と思っていたが、他に食べるものが無いから我慢して、いやいや食べていましたが、次第に黒パンのうまさがわかり、ついには黒パンなしでは生活できないほどになってしまいました。たまたま妻が横浜でパン屋をしていたこともあって、この黒パンを日本で作ったら売れないだろうかと考え、平成6年12月で商社を退社し、現

地の友人から入手したレシピをもとに黒パンの試作に取りかかりました。ところが国産のライ麦粉ではあの酸味や独特の香りが全くでない。そこでハバロフスクの友人からライ麦を送ってもらい、現地の酵母を取り寄せて、やっとあの独特の酸味や香りができるようになったのです。しかし、最初はアエロフロートやロシア大使館に持ち込んで、こんなのは黒パンなんかじゃないと門前払い、日本にいるロシア人からアドバイスを受けて試行錯誤をくり返しやっと本物に近い黒パンが出来上がりました。しかしなかなか安定した販売ルートができない。そんな時NHKの〈おはよう日本〉でサンドリヨンが取り上げられ、それがきっかけで日本中から注文がくるようになったのです。特にソ連に20年近く抑留され、最後の最後に日本に帰って来た人達からは涙なしには読めない手紙が届きました。『黒パンで命のやりとりをし



多田井順子さん

た、1ミリでも厚かったら喧嘩になった、懐かしい、死ぬまでにもう一度本物を味わってみたい、是非送って欲しい!」

(苦しい想い出とともにある黒パンなど二度と口にしたくないのではと思うのですが、食の記憶の不思議さでしょうか。黒パンのちよつと酸っぱい味わいの深さは、そういうずっしりとした思い出に、しっかりと釣り合います。多田井さんのお話しは心を揺さぶります)

JCFの活動については知ってましたよ。チェルノブイリの事故は無計画で無責任な現地の政府に責任があり、家を引き払い他の場所に行かねばならなかった人々は、口では言い表せない悲惨な状況にあると思います。そういうチェルノブイリを日本で支援している勇氣ある団体には、これからもうつと応援していきたいと思っています」。

多田井さんから勇氣の言葉

という布山の貧しい勝手な連想を見事に裏切って、このきゃしゃな可愛い方が黒パンを作っている多田井さんの奥様、順子さんでした。順子さんは開口一番おっしゃいます。

「ここは女性で廻っているんですよ。スタッフもほとんど女性ですし、ウチは騒いで邪魔してるだけ、実質は女性が動かしています!!」

「私は学生の時にパン屋さんでアルバイトしているうちにパンに魅かれて、パン屋の店長を10年やりました。その頃、どういうわけか主人と出会ったんですよ。主人から黒パンを作りたいと言われた時も、私は現地に行つたことがなかったし、レシピをもらつて、かちんかちに冷凍されて何だかカビ臭いような黒パンを食べさせられても、イメージが湧かなくて…。専門家にその黒パンを分析してもらい、現地から材料を取り寄せて、いろいろ試したんですが、やはり気候風土が違

ただき、感激していると、パンを作っている工場にも案内して下さるとおっしゃいます。しばらく待つうちに、お店の前にパンを満載した車が止り、中からパン屋さんのユニホーム姿の女性が降りて、てきぱきとパンを下ろし、空いた車で工場に向かいます。車のドアを開けたとたんにあの香ばしいパンの香りが飛びこんできます。パンはみんなお店に下ろしたのに、車の中はパンの香りが染みついているようです。混みあつた市内の道路をすると縫うように走つてもう一軒のサンドリヨンのお店に着きました。

「この奥が工場になってます」

多田井さんの案内でお店に入ると奥からピンクのTシャツが良く似合うエプロン姿のほっそりとチャーミングな女性が現れました。多田井さんはロシア人と並んでも決して見劣りしない恰幅のいい方ですし、黒パン↓ロシア女性↓マトリョーシカ型どっしり奥様、

ので、なかなかこれというものができなかったんですよ。(おつ、多田井さんの言うのとちよつと違うぞ、現場の証言はやはり重要だ!) 試行錯誤してやつとこれならというものができたんですが、一日一つ売れるかどうかだったんです。でも街のパン屋もただのアンパンやクリームパンだけを売っているのはダメな時代になって、マスコミにも取り上げられ、少しづつ黒パンも定着してきてます。アレルギーにもいいとアトピーの方が買いに来ますし、食物繊維が多いので、便秘にならない、低インシュリン効果もあると言われてるんですよ。このパンはとてもいいものなので、もっと多くの方に食べて頂いて、定着したらいいなと思ってます。そしてせっかくだから、パンを通じてロシア関連の皆さんのような団体に少しでも応援できたらと思つています」。

淡々と話して下さる言葉は静かで

わさびの赤カブサラダ

8月の末、ベラルーシの女性達は、食料庫から空になった2リットル位のガラスビンを取り出します。農家のおばあちゃん達も、中庭の地下室に並んでいるビンの煮沸消毒に取りかかります。キュウリやトマトの夏野菜ピクルスを越冬用にたくさん作らなければなりません。

ぴかぴかになったビンに、キュウリを洗って詰めます。その上から砂糖を少しまぶしていきます。次にお酢。ベラルーシのお酢はかなりききます。ぼたぼたと注いでから、熱湯を注ぎ、一連の作業は終わりです。そして、フタをする最後の一手がポイントです。ニーナおばあちゃんは「根っこを取って来ると言ったのは誰だっけ」と独り言をつぶやきました。すると、側にいたアレクセイがさっと外に出ていき、すぐに“根っこ”を持って帰って来ました。何だろう、とのぞくとそれは“わさび”だったのです。わさびは、そばにお刺身、冷や奴に寿司、日本料理だけと思っていました。形は似ていても、辛みはないかもしれない。疑いつつ、ニーナおばあちゃんが、ナイフでスライスしたわさびを食べてみました。同じです。ニーナおばあちゃんはキュウリピクルスの香辛料にわさびと畑から取ってきたウクロップの実を入れました。映画「アレクセイと泉」でご覧下さい。越冬用の野菜の保存とピクルス作りはこの時期の女性達の仕事です。

ロシアでわさびを使った赤カブサラダを見つけました。秋の宵、人肌熱燗に付けてみましょうか。



<材料>

赤カブ(500g) お酢(1/2カップ) わさび(1) 月桂樹の葉(1) コショウ(5・6粒)

<作り方>

1. 赤カブの皮をむかずにゆでる(圧力鍋の弱火で1時間)。
中までくしが通る位になったら、上げて皮をむき、薄切りにする。
2. 好みて香辛料、塩、砂糖を加えながら、酢水を作る(ここはさじ加減です)。
3. わさびを目の粗いおろし器ですりおろすか、スライスする。
4. 赤カブを陶器かガラスの器に重ねて並べる。
5. それぞれの赤カブの間にわさびをはさむ。
6. 準備しておいたマリネ液を注ぐ。
7. 冷蔵庫に保管し、2・3日寝かせてから食べる。



も、多田井さんの熱い言葉とはまた違う、静かで揺るぎないパンへの自信と愛情が感じられます。しかもお話の間、一瞬たりとも順子さんの手は止らず、次々にパンが作られていきます。成型後ねかしてあった天然酵母を使ったアダム&イブという丸いパンに飾り包丁を入れ、一つ一つ両手で包み込むようにして仕上げの形付けをして、パン釜に並べていきます。ふと気が付くとさっきまで冗舌だった多田井さんは工場ではちよつと物静かになってます。大きな釜に入れられたパンは高压蒸気が噴霧され、その後焼き上げられ

ます。この蒸気によってパンに適度の湿り気を与え、パンをツヤよく仕上げたのだそうです。工場内のいろんな機械やパンを作る過程の説明を聞き、スタッフの方の作業も見せていただきました。パン屋さんの朝は早く、朝6時から仕事が始まり、午後3時頃まで次々にパンを焼き上げ、その後翌日の仕込みをすませ、御自宅に戻るのは夜の10時過ぎになるそうです。すっかりお仕事の邪魔をしてしまったので、そろそろ引き上げようとしていると、多田井さんが、最後にさっき釜に入れたパンを見せてあげましょう、とおっしゃいます。(でもあれはまだ釜に入れたばかりだから、途中で釜を開けてはいけないのでは...)と思う間もなく、多田井さんが一瞬、大きなパン焼き釜の蓋を開けました。

傲慢のパンの前で誇らし気な多田井さん、その多田井さんをまるでいたずらつ子を見るような目で微笑んで見てる順子さん、お二人の笑顔の前で、ほんのりきつね色に色付いて、飾り包丁の切れ目から2つの山が盛り上がるように膨らんでいる美味しそうなパンが、釜の中でこちらを向いて笑っています。

JCFに届く黒パンは、多田井さんのモスクワ放送との出会いから始まり、どういうわけかの奥様との出会い、そして多田井さんの商社マンとしての豊富な経験や人脈、NHKの放送、そんな様々な偶然の出会いの物語の結晶でした。どうぞこれからも美味しい本物の黒パンを作り続けて下さい！

たくさんのお話を聞かせて下さった多田井さん、お仕事中心にお邪魔したのに、快く仕事場を見せて下さった奥様、そして素敵なスタッフのみなさま、ありがとうございました。

もう一度あのパンの香りいっぱいの中車に乗りたいなあ〜！

(事務局・布山)



よろずそこつどうほんほ 萬粗忽堂本舗

店主 村石 保

その四

偏愛のココロ①【旅のトラレク】

無類の不精者だが、旅だけは例外である。とりわけ日本人の少ない（いないほうがもっといい）、まして日本語の通じない海外へ赴くと、満身持病だらけの五十男の生活が、快食・快眠・快便の絶好調状態に豹変する。だから旅が好き。夏が終わり秋風が立ち、少しばかり人肌が恋しくなる頃、トラレク片

手に旅に出たくなる。が、本当のところは、単にエアリーチケットが安くなるというだけのこと。

さて旅にはトラレクが欠かせない。つまり旅行用鞆のことである。トラレクを持つての旅となると、たいがいは一週間以上の海外旅行ということになる。ここ十年來愛用しているのは、ドイツ製RIMOWA（リモワ）の大型トラレク。ジュラルミン製だからすこぶる軽い。着れ高きドイツ職人の仕事だから頑丈この上ない。余計な装飾は一切施されていない極めてシンプルなデザイン。その上、どの空港でもあまり見かけないから（未だ目撃したことはない）、一目瞭然。因みに作家の椎名誠が同じトラレクを持っている。岡好の士というわけだ。それ以来、椎名氏にはシレパシーを感じている。そんなわけで、わがRIMOWAのトラレクは、まさに逸品の名に恥じない優れモノである。当然ながら値段は高価だが、これまでの旅行をつつがなく過ごせたことを思えば、決して高い買い物とも思えない。

くだんのトラレクも十年以上使用していると、どこまかしこも傷だらけである。ジュラルミン製だか

ら凹む。傷の数だけ旅の思い出が詰まっている相棒だから、おいそれと買い換えるつもりはない。熱しやすく冷めやすいわが性格にしては長続きしている相思相愛の間柄である。

数年前、あまりの酷使のため、さすがのわがRIMOWAも、車輪がトラレク本体から外れてしまった。買った店もつぶれてしまったり、近所に修理してくれるところがなかったということもあり、しばらくはキャリアにトラレクを縛り付けて使用していたが、どうにもキャリアというものが煩わしく、インターネットで検索したら、なんと滋賀県にトラレク修理の専門店が存在することを発見。これがまたドイツ職人に負けず劣らずの日本職人。二週間ほどで愛用のトラレクが送られてきたが、どこを修理したのかわからないほどの仕事ぶりには感動した。

この秋もプラハからエルベ川沿いに旧東独を廻り、ベルリンに至る十日間ほどの旅を予定していた。往復のエアリーチケットも一カ月前に予約すると格安になるので、手に入れていたのだが、この夏の異常気象の大雨により、今回のコースは壊滅状態となり、

やむなく断念したという経緯がある。

そんな意気消沈の冷めやらぬある日。JCF事務局長の神谷さだ子女史から電話があった。すこぶるご機嫌な声で（受話器の向こうで小躍りしている神谷の姿が彷彿としてくるのだ）「ウッフフ……。それは私もプラハ連れていけってことですよ。次回は私も一緒に計画して下さいねえー」。少し前に『プラハの春』という小説を貸してやったから、以来、彼女はすっかりプラハ虜虜となってしまうのだ。この分では、次回の旅は神谷をトラレクに詰め込んでの珍道中になりそうだ。今からそのことが、いささか怖くもあるが……。

トラレクといえば、アーサー・ミラーの芝居「セイルスマンの死」で、主人公ウィリー・ローマン以上に、彼が持っていた革製のトラレクが印象に残っている。あの鞆には近代アメリカの不条理がいっぱい詰まっていた。一方、わが空っぽのRIMOWAは、部屋の隅でご主人様の次の旅を待っている。

質に変える」との理由で新品に取り換えられている。(10月8日)

●福島第二原発、新たに「ひびの兆候」

東京電力は、シュラウドにひびの疑いが指摘されて点検中の福島第二原発2、3号機で、新たに計27カ所のひび割れの兆候が見つかったことを明らかにした。今後、超音波探傷試験(UT)などで、ひびかどうかを確認する。兆候が見つかったのは2号機が24カ所、3号機が3カ所。(10月9日)

●青森知事、保安院の分離要求

木村・青森県知事は、都内で開かれた核燃料サイクルの関係閣僚との協議会で、東京電力による原発のトラブル隠しを批判したうえで、経産省の下にある原子力安全・保安院を分離することや、原発や核燃料サイクル施設を抱える県と政府との話し合いの場を規定することなどを要求した。その後の会見で、受け入れられなければ、青森県の再処理工場への使用済み核燃料の搬入を認めないとの考えを初めて示した。(10月10日)

●保安院、福島第一で新検査実施

原発の検査強化を打ち出した経済産業省原子力安全・保安院は、その第一弾として、福島第一原発6号機で厳格化した新検査を実施する。東電に対する行政措置の一環で、来年から導入予定の監査型検査などを前倒しで採り入れる。(10月15日)

●東電会長に田村氏昇格

東京電力の新社長に就任した勝俣恒久社長は、記者会見で、会長に田村滋美副社長が昇格する人事を明らかにした。(10月15日)

●原発検査新法人設置法案提出へ

経済産業省原子力安全・保安院は、自民党の経済産業部会で、原子力発電技術機構など関係3法人を統合、原発検査体制の中核を担う独立行政法人「原子力安全基盤機構」新設法案を臨時国会に提出することを説明した。来年度設立を目指す。東京電力などの一連の不正を受けた再発防止策の一環で、電気事業法などの改正案も報告した。(10月17日)

●福島第二3号機「ひびの様相」確認

東京電力は、シュラウドにひびの疑いが指摘され、点検中の福島第二原発3号機で「ひびの様相」を1カ所確認したと発表した。長さは約30ミリという。3号機は9月30日から水中カメラなどでシュラウドの点検をしていた。(10月18日)

●福島原発の改善指摘

東京電力の原発で安全管理に多くの不正があった問題をめぐり、経済産業省原子力安全・保安院は、福島第一原発6号機で、機器の管理や職員の作業手順などの保安体制に5項目の問題点があった、と発表した。(10月18日)

●経産省、原発交付金上乗せ

経済産業省は、運転中の原発を抱える地方自治体への交付金を手厚くする方針を固めた。経産省では、東京電力の原発の損傷隠しなど相次いで原発のトラブルが明らかになる中で、地元の理解をつなぎとめることが重要だとしている。03年度から順次実施する。(10月20日)

●「維持基準」導入に十分な説明要望

澄田・島根県知事は、経済産業省で平沼経産相に会い、原発に損傷があっても安全性に問題がなければ運転を認める「維持基準」(健全性評価基準)を同省が導入しようとしていることについて「国民や自治体に十分に説明してほしい」と要望した。澄田知事は「基準を整える必要性は分かるが、きちんとした科学的根拠があるのか、と心配している人もいる」と指摘した。(10月22日)

●福島第二原発「ひびの様相」新たに発見

東京電力は、福島第二原発2号機のシュラウドで26カ所、3号機のシュラウドで2カ所、新たな「ひびの様相」を見つけたと発表した。最も長いものは2号機で長さ約20センチ、3号機で約13ミリあった。2号機はこれまでに5カ所、3号機は1カ所でひびの様相が見つかった。(10月23日)

●福島第一4号機「ひび割れ」確認

東京電力は、福島第一原発4号機のシュラウド内側でひび割れ1カ所を確認したと発表した。ひびは長さ18センチ、深さ13ミリ。超音波による

検査で分かった。東電のトラブル隠しで福島県内の原発のシュラウドで実際にひびが確認されたのは初めて。(10月24日)

●柏崎刈羽1号機「ひび割れ」確認

東京電力の柏崎刈羽原発は、トラブル隠しの指摘を受けて点検していた1号機のシュラウドで、深さが最大約12ミリのひびが確認できたと発表した。一連のトラブル隠しでは、「ひび割れの兆候(インディケーション)」が指摘されてきたが、同号機で実際にひびだと認めたのは初めて。(10月24日)

●日本原電が報告書提出

日本原子力発電は、敦賀原発1号機のシュラウドで、最大53カ所のひび割れの兆候を見つけながら報告していなかった問題で、「国や自治体に適切な情報を提供すべきだった」との調査報告書を経済産業省に提出した。(10月24日)

●福島第一原発1号機を1年停止処分

福島第一原発1号機の格納容器の気密試験データ偽装疑惑で、東京電力は、91、92年の2回の定期検査の際、偽装工作があったと発表した。同1号機を自主的に停止し、気密試験をする。報告を受けた経済産業省原子力安全・保安院は、一連のトラブル隠しの中でも極めて悪質とし、原子炉等規制法に基づき1年間の原子炉停止処分にすることを決めた。(10月25日)

●福島原発問題で新たな処分検討

東京電力は、福島第一原発の原子炉格納容器の気密試験データで発見した偽装工作で、関係者の新たな処分を検討する方針を明らかにした。(10月25日)

●再発防止徹底を勧告へ

東京電力の一連の不正を受け、国の原子力安全委員会は、小泉首相を通じて平沼経産相に対し再発防止の徹底を勧告することを決めた。「国民の信頼が著しく損なわれたゆゆしい事態」(松浦委員長)に、原子力安全行政にも問題があったと判断。安全委がこうした勧告をするのは78年の設立以来初めて。(10月28日)

●違反企業に罰金

東京電力の不正を受けて、経済産業省原子力安全・保安院が臨時国会に提出を予定している電気事業法と原子炉等規制法の改正案の骨子が明らかになった。違反者への懲役とともに企業側に多額の罰金を課す内容。(10月28日)

●原子力保安院に内部告発担当課

東京電力の原発検査の不正を受け、平沼経済産業相は、内部告発の窓口と調査を担当する「原子力安全特別調査課」(仮称)を同省原子力安全・保安院に設けることを明らかにした。同省は検査強化に向けた電気事業法などの改正案を今臨時国会に提出する予定で、これらに対応して検査担当職員を161人増やすことも検討している。(10月29日)

●東電、企業倫理委設置

東京電力は、原発の損傷隠し問題を受け、再発防止策の一環として、社内に企業倫理委員会を設置した。企業倫理遵守のための活動方策の策定や、企業倫理に反する行為の調査などを行う。(10月30日)

●福島第二4号機「ひびの様相」確認

東京電力は、再点検していた福島第二原発4号機のシュラウドで「ひびの様相」を5カ所確認したと発表した。これで、トラブル隠しが指摘されて停止し、再点検した東電の原発5基全部のシュラウドで、「ひび」または「ひびの様相」が確認されたことになる。(10月31日)

●保安院独立求め要望書

原発立地市町村でつくる全国原子力発電所所在市町村協議会は、経済産業省原子力安全・保安院の独立などを求める要望書を国や自民党に提出した。(10月31日)

その3

●5原発に立ち入り調査

東京、中部、東北電力の原発11基で発覚したトラブル隠し疑惑で、経済産業省原子力安全・保安院は立ち入り検査をし、70点以上の検査記録などを入手した。電気事業法に定めた技術基準違反と隠蔽工作の有無などを調べる。立ち入り検査したのは、東電が福島第一1～5号機と第二3号機、柏崎刈羽1、2号機の8基。中電が浜岡原発1、3号機。東北電力が女川原発1号機。いずれも冷却水の流れる再循環系配管の溶接部で、複数のひび割れ兆候が見つかった。(9月21日)

●保安院、全工程の記録検査

経済産業省原子力安全・保安院は、機器の健全性チェックを軸とする現在の原発検査体制を、材料調達から補修、点検までの全工程の記録をもとに検査する「監査型」に変える検討を始めた。総合資源エネルギー調査会の原子力安全規制法制検討小委員会で説明した。(9月24日)

●福島原発第一、第二立ち入り検査

経済産業省原子力安全・保安院は、ひび割れが見つかりながら東電が国へ報告しなかった福島第一原発4号機と、第二原発2号機のシュラウドの自主点検作業の立ち入り検査に入った。(9月24日)

●福島第一の配管、過去に損傷

経済産業省原子力安全・保安院は、福島第一原発2、3、5、6号機の4基で88年から01年にかけて制御棒を動かす配管にひび割れがあったと、東京電力から連絡があったことを明らかにした。(9月24日)

●プルサーマル凍結申し入れ

福島第一、第二原発がある福島県の双葉、大熊、富岡、楡葉の4町は、第一原発3号機のプルサーマル計画と、同原発7、8号機増設計画の凍結を東電に申し入れることを決めた。(9月24日)

●保安院、再発防止策報告へ

経済産業省原子力安全・保安院は、運転可能な損傷の目安を示す「欠陥評価法」の導入や自主点検の法定化、罰則強化などを盛り込んだ再発防止策をまとめた。国の原子力安全規制法制検討小委員

会に報告する。(9月25日)

●原電もシュラウド損傷隠し

日本原子力発電は、敦賀原発1号機の原子炉内部にあるシュラウドに多数のひび割れの兆候を確認しながら国へ報告せず、交換していたと発表した。これを受け、県はすでに同意している敦賀3、4号機増設計画の手続きを保留する方針を表明。(9月25日)

●伊方原発、タービン架台にひび

四国電力は、伊方原発1号機のタービン発電機のコンクリート架台で、アルカリ骨材反応が原因とみられるひび割れが多数見つかったことを明らかにした。ひび割れは82年に確認されていたが、四国電力は安全性に問題ないとして運転を続け、県や国などへ報告していなかった。(9月26日)

●福島知事、プルサーマル事前了解撤回

佐藤・福島県知事は県議会で、東京電力の原発トラブル隠しによってプルサーマル計画実施の前提条件が崩れたとして、福島第一原発3号機に98年に与えた事前了解の撤回を表明した。(9月26日)

●保安院長ら6人処分

経済産業省は、東京電力の原発トラブル隠しに対する調査が遅れた問題で、原子力安全・保安院の佐々木院長を国家公務員法に基づく戒告とするなど幹部5人の処分を発表した。平沼経産相も給与の2割を2カ月分、自主的に返納する。(9月27日)

●告発者の名を東電に漏らす

東京電力の原発損傷隠しで、経済産業省原子力安全・保安院は、旧通産省時代に調査担当者が内部告発者の実名などを東電に漏らしていたことや、約2年の調査期間のうち半分は調査が休止状態だったことを明らかにした。(9月27日)

●福島原発、格納容器データ偽造か

東京電力の福島第一原発1号機で92年、原子炉格納容器の気密性を確かめる試験データが偽造された可能性のあることが明らかになった。東電の内部調査でこれを示唆する記録資料が見つかった。格納容器は核燃料を入れた圧力容器に損傷が

起きてても放射能を閉じこめる重要機器。偽造が事実とすれば、一連のトラブル隠しを大きく上回る不祥事となる。(9月28日)

●福島第一4号機「ひびの様相」確認

東京電力の原発トラブル隠しで、点検会社から「シュラウドにひびの兆候がある」と指摘された福島第一原発4号機について、水中カメラで点検した東電は「指摘された部分にひびはなかった。しかし、付近に新たにひびの様相1カ所を確認した」と発表した。(9月30日)

●原発損傷隠し「チェック機能がマヒ」

原発の一連の損傷隠し疑惑をめぐり、経済産業省原子力安全・保安院は、調査の中間報告をまとめた。東京電力をはじめとする事業者側で、原子力部門でのチェック機能がマヒしていたことが根本原因と指摘するとともに、国にも自主点検のルールなどを不明確なままにした問題点があったと認めた。(10月1日)

●東電に行政措置

平沼・経済産業相は、南直哉・東電社長に対し、原発の定期検査から自主点検までを当面厳しく監視する5項目の行政措置を言い渡した。さらに、今年度末までに再発防止策を報告するよう求めた。(10月1日)

●損傷隠し再発防止策まとめる

東京電力に端を発した原発の損傷隠しで、経済産業省の原子力安全規制法制検討小委員会は、自主点検の法定化や機器の損傷評価制度など再発防止策を盛り込んだ中間報告をまとめた。同省原子力安全・保安院は、次期臨時国会に電気事業法などの改正案を提出する。(10月1日)

●保安院と経産省分離要望決める

東京電力などによる原発のトラブル隠しを受け、原発立地市町村でつくる「全国原子力発電所所在地市町村協議会」は、東京都内で役員会を開き、経済産業省原子力安全・保安院を経産省から分離することなどを求める要望書を、国と自民党に提出することを決めた。(10月3日)

●福島第二2号機「ひびの様相」確認

東京電力は、ひびを隠していたと米GE社が指摘した福島第二原発2号機のシュラウドを調べた結果、「ひびの様相」が確認されたと発表した。9月24日から水中カメラで点検していた。(10月3日)

●東電に社外調査団

東京電力は、福島第一原発1号機格納容器の気密データ偽造疑惑で、前田宏・元検事総長を団長とする5人の社外弁護士調査団を設けた。社内調査では事実確認に限界があると判断したため。東電と検査を請け負った日立製作所は、経済産業省原子力安全・保安院に、要求された点検記録を提出した。(10月4日)

●原発事故「不安」9割

原発で事故が起きることに、9割近くの人が不安を感じていることが、10月5、6日に実施した朝日新聞社の全国世論調査(電話)でわかった。東京電力などによる原発の「トラブル隠し」が続いたことで、電力会社への不信感が数字に表れたと見られる。また「安全に重大な影響はない」という国の説明にも「納得できない」人が86%にのぼった。(10月8日付)

●原発立地の3知事、国を批判

原発をめぐるトラブル隠しが相次いでいる問題で、新潟、福島、静岡の3県の知事は、首相官邸で開かれた全国都道府県知事会議で「住民には原発への不信感が広まっている」と国の対応に不満を表明した。小泉首相は「安全性確保には国全体で取り組まなければならない」と答えるにとどまった。(10月8日)

●島根原発1号機、損傷兆候の疑い

中国電力の島根原発1号機で94年の自主点検の際、原子炉内のシュラウドにひび割れの兆候の疑いが検査会社から指摘されていたことが分かった。中国電力は最終的に「ひびではない」と判断し、国に報告しなかったが、「当時の対応に問題はなかった」としている。シュラウドは00年5月～01年4月の定期検査時に、「ひびが入りにくい材

●「ひび割れ」指摘3度隠す

東京電力の原発トラブル隠しをめぐり、柏崎刈羽原発1号機で指摘されているシュラウドのひび割れの兆候について、同原発の武黒所長は「94年の定期検査の際、ゼネラル・エレクトリック（GE）社側からの報告に記載されていたが、（東電では）『異常なし』としていた」と明らかにした。その後の96、97年の検査の際も、GE社側から同様の指摘がありながら「異常なし」としていたことも認めた。（9月9日）

●損傷隠蔽、緊急冷却系でも

東京電力福島第一原発1号機の緊急炉心冷却システム（ECCS）系の機器の損傷が94年ごろから00年度にかけて隠蔽されていたことが、明らかになった。この機器はすでに交換されている。経済産業省原子力安全・保安院は電気事業法に定められた工事計画の届け出義務などに違反する可能性もあるとみて調べている。（9月10日）

●プルサーマル「白紙に戻せ」

佐藤・福島県知事は、国が進めるプルサーマル計画について「もう一回、白紙に戻して考える時期に来ているのではないかと述べ、国が計画自体を見直す必要があるとの考えを示した。（9月11日）

●事前了解撤回決議案を可決

新潟県の刈羽村議会は臨時議会を開き、柏崎刈羽原発3号機のプルサーマル計画に対する村の事前了解の撤回を求める決議案を全会一致で可決した。（9月11日）

●プルサーマル事前了解取り消し

平山・新潟県知事は、柏崎刈羽原発を抱える西川・柏崎市長、品田・刈羽村長と会談し、プルサーマル計画で東京電力に与えていた事前了解を3自治体とも取り消すことで合意した。（9月12日）

●東電、6件違法の疑い

経済産業省原子力安全・保安院は、東京電力の原発トラブル隠しの調査結果（暫定）を公表した。自主点検記録に不正記載の可能性が指摘されていた29件のうち悪質な6件は、電気事業法で定め

る技術基準適合義務などに違反した疑いがある。さらに、国への報告を怠ったり事実と異なる報告をしたりした疑いが5件、自主的な保安のあり方として不適切なケースも4件あった。残りの14件は「安全規制などとの関係では、特段の問題は見いだされない」とした。（9月13日）

●保安院、告発・処分見送り

東京電力による原発のトラブル隠しで、経済産業省原子力安全・保安院は、悪質なものであっても電気事業法や原子炉等規制法の法令違反に問えないとして、刑事告発や行政処分を見送る方針を明らかにした。（9月13日）

●東電、プルサーマル計画の凍結要望

東京電力が、原発のトラブル隠し問題にからみ、8月上旬に経済産業省原子力安全・保安院に対し、調査に全面協力すると同時に、実現に向けて動き始めたプルサーマル計画の凍結を働きかけていたことが分かった。（9月14日）

●東電、保安監査部門新設

東京電力は、原発のトラブル隠し問題を受けた不正再発防止策の枠組みを固めた。原発の保安監査に専念する社長直属の「品質管理部」を新設、社外専門家による「原子力安全品質保証会議」（仮称）も発足させる。（9月14日）

●東電、常務1人降格

東京電力は、原発のトラブル隠し問題に関与したとして、常務1人を取締役へ降格、取締役1人を減俸とする方針を固めた。（9月15日）

●内部告発「内輪もめ」と判断

東京電力の自主点検を請け負ったGEIの元検査担当者から旧通産省に寄せられた内部告発に、担当部署が「同社内内輪もめ」という心証を抱いていたことが分かった。これが調査の立ち上げりを緩慢にし、解明を長引かせた。（9月15日）

●東電、35人を社内処分

東京電力は、一連のトラブル隠しの社内調査結果と処分、再発防止策を公表した。不正の疑いのある29件のうち、16件が社会通念に照らして「不

適切な点が認められた」と判断、原子力部門の35人を処分する。発電所や本社幹部も関与した組織的な隠蔽工作があったことを認めた。しかし、具体的に誰の指示で隠蔽が行われたのかは明らかにしておらず、社内調査の限界も明らかになった。（9月17日）

●GE社でも社員処分へ

東京電力の社内調査結果が発表されたのを受け、同社の自主点検を請け負ったGEIの親会社のGE社は、「東電の求めに応じて報告書に不適切な記載をした」として、今後、関係した社員を社内規定に基づく懲戒処分にするなどとした見解を発表した。（9月17日）

●保安院、原発立ち入り検査へ

経済産業省原子力安全・保安院はシュラウドに損傷の残っている東電の原発5基を対象に、電気事業法（報告徴収）に基づいてデータ提供を求めるとともに、立ち入り検査をする方針を決めた。対象となるのは福島第一4号機と第二2、3、4号機、柏崎刈羽1号機。（9月17日）

●日立も改竄関与

東京電力が米GE以外の業者にも福島第一原発4号機の点検データの改竄を指示していた問題で、この業者が日立製作所だったことが分かった。日立は事実を認め、「東電から改竄の要請があったとはいえ、それに従ってしまったことは遺憾だ。さらに調査し、再発防止策を強化する」（広報部）としている。（9月18日）

●東電社長、福島知事に謝罪

原発のトラブル隠しで隠蔽が会社ぐるみだったことを認めた東京電力の南社長は、福島県郡山市の県合同庁舎を訪れ、佐藤知事に初めて直接謝罪した。これに先立ち、南社長は福島第一、第二原発の地元4町をおわび行脚した。（9月18日）

●東電、別に8件隠す

東京電力による原発のトラブル隠しで、発表済みの29件以外に8件の隠蔽があったことが明らかになった。原発8基で、安全性への影響が大きい再循環系配管に多数のひび割れの兆候があったの

に、国に報告しないまま交換するなどしていた。電気事業法に基づく報告義務や技術基準違反の疑いがある。（9月19日）

●中部・東北電力も隠蔽か

東京電力の原発8基で再循環系配管の溶接部のひび割れ隠しが発覚したのに続いて、中部電力、東北電力でも同じ配管の損傷隠蔽の疑いがあることがわかった。経済産業省原子力安全・保安院は、中部電力2基、東北電力1基を含む計11基で国に未報告の損傷があったと発表した。同配管は、東電の当初のトラブル隠しで問題となった機器とは異なり、定期検査の対象となる安全面で重要な機器。保安院は報告すべき損傷だったとみて11基を立ち入り検査する。（9月20日）

●電事連会長に関電の藤社長

電気事業連合会は、東京電力の南直哉社長が、原発のトラブル隠しで原子力への信頼を失墜させた責任を取り電事連会長を辞任、後任に関西電力の藤洋作社長が就任する人事を決めた。（9月20日）

●電力各社、過去10年の記録を提出

原発を所有する国内の電力会社9社と関連会社など7社の計16社は、原発の自主点検が適正に行われてきたかどうかを確認する総点検の計画書を経済産業省原子力安全・保安院に提出した。各社とも対象とする過去の記録は最長10年前までとしている。（9月20日）

●ひび割れ兆候、最長2メートル

東京電力による原発8基8件の新たな損傷隠しで、再循環系配管（肉厚約4センチ）溶接部のひび割れの兆候は最長2メートル、ひびの深さは13～2ミリに及んでいたことが明らかになった。経済産業省原子力安全・保安院は事態を重く見て、東電に対して電気事業法に基づく報告徴収や再度の立ち入り検査をする方針を固めた。（9月20日）

●柏崎刈羽原発2号機停止

東京電力は、柏崎刈羽原発2号機の運転を停止し、再循環系配管に損傷の兆候は残ったままなので緊急点検をする。（9月20日）

東京電力などによる原発トラブル隠し関連記事

(8月29日～10月31日)

●東電原発トラブル隠し

経済産業省原子力安全・保安院は、東京電力の福島第一、第二、柏崎刈羽原発で、80年代後半から90年代前半にかけての自主点検記録に不正があったと発表した。ひび割れなどで29件の虚偽記載があり、トラブル隠しの可能性が大きいとみている。うち8基は損傷があるまま運転されている恐れがある。東電の南直哉社長は虚偽記載の可能性があることを認めて謝罪し、プルサーマル計画の早期実施を断念した。(8月29日)

●東電社員改竄指示か

保守担当の東電社員が原発の自主点検を請け負った会社の従業員に対し、点検データの改竄を指示した疑いが、経済産業省原子力安全・保安院の調べで濃厚になった。この1年間にあった点検でも改竄疑惑が出てきた。(8月30日)

●原発所長らの関与調査

原発トラブル隠しに関与した疑いで、東電の社内調査にリストアップされた約100人の中に、80年代後半から90年代当時の各原発の所長や、本社の原子力管理部門の幹部が含まれていることが明らかになった。(8月31日)

●東電社長・会長辞任へ

東京電力の南直哉社長と荒木浩会長が、原発のトラブル隠し問題の経営責任をとって辞任する見通しになった。(8月31日)

●無届け工事行政処分へ

経済産業省原子力安全・保安院は、東電福島第一原発1号機で自主点検記録を改竄した蒸気乾燥器を勝手に交換した疑いについて、電気事業法違反(無届け工事)容疑で行政処分する方針を固めた。(8月31日)

●異常隠し、87年のボルト損傷から

東京電力による不正は87年ごろボルトなど比較的軽微なもので始まり、次第にシュラウド(炉心隔壁)など主要機器に拡大したことが明らかになった。福島第一2号機では94年の損傷公表までシュラウドの安全対策が約4年遅れたこともわかった。(9月1日)

●柏崎刈羽原発1号機検査前倒し

東京電力は、原子炉内のシュラウドに未修理のひびが残っているとみられる柏崎刈羽原発1号機の運転を止める準備を始めた。9月24日に始める予定だった定期検査を前倒しするため。経済産業省原子力安全・保安院は損傷が残っている疑いのある計5基の原発について、すぐに止めなくても安全性は保たれると評価している。(9月1日)

●東電首脳、総退陣へ

東京電力は、原発の自主点検データ改竄などの「トラブル隠し」の責任を取り、荒木浩会長と南直哉社長に加え、平岩外四、那須翔の両相談役、原子力本部長の榎本聡明副社長の5人が辞任する引責人事を発表した。歴代トップ4人を含む首脳が事実上、総退陣することになる。後任の社長には、今回の不祥事で社内調査を指揮する勝俣恒久副社長が昇格する人事も内定した。(9月2日)

●福島第一、第二も停止

東京電力は、福島第一原発4号機と第二原発2、3、4号機を順次止めて点検することを明らかにした。柏崎刈羽原発1号機もあわせ計5基が止まるため、停止時期によっては、電力供給への影響防止対策が必要になる。また、経済産業省原子力安全・保安院は、これら3原発の立ち入り検査を始めた。(9月2日)

●福島・大熊町議会、事前了解を撤回

東京電力福島第一原発3号機のプルサーマル計画について、地元の福島県大熊町議会は、事前了解を白紙撤回することを決めた。全員協議会の全会一致の判断。(9月2日)

●損傷隠し十数件 3月時点で浮上

東京電力の自主点検を請け負ったゼネラル・エレクトリック・インターナショナル社(GEII)の調査で、3月に十数件の損傷隠しが浮上していたことが明らかになった。東電は最終的に29件を把握。だが経済産業省原子力安全・保安院に報告したのは半年後の8月7日にずれ込んだ。(9月2日)

<朝日新聞>から

●東電副社長「傷の報告受けた」

東京電力の榎本聡明副社長は、柏崎刈羽原発の所長当時に「1号機のシュラウドに小さな傷があると報告を受けた記憶がある」と語った。トラブル隠し29件のうちの1件で、東電役員が自らの関与に言及したのは初めて。(9月3日)

●偽りの「異常なし」5回

東京電力の榎本聡明副社長が柏崎刈羽原発所長当時に報告を受けていた同原発1号機のシュラウドの傷は、発見された96年から昨年まで5回にわたり国などに提出された定期検査報告書に記載されていないことがわかった。(9月3日)

●直接関与は約50人

東京電力の南直哉社長は、原発トラブル隠しに関連し、不正に直接かかわった可能性のある社員は50人程度に上るとの見通しを明らかにした。(9月3日)

●疑惑段階の検査を検討

経済産業省原子力安全・保安院は、電力会社などの不正の告発を受けたら、即座に立入検査や報告を求めることができるよう、電気事業法などを改正する検討を始めた。(9月3日)

●虚偽報告の証拠書類入手

東京電力柏崎刈羽原発の立ち入り検査をした経済産業省原子力安全・保安院は、損傷の疑いがある同原発1号機のシュラウドを「異常なし」としていた証拠書類を見つけた。29件の虚偽報告疑惑のなかで初めて裏付けられた。福島第一、第二原発の立入検査でも関係記録を入手できた。(9月4日)

●規制見直し早める

経済産業省原子力安全・保安院は、軽微な損傷なら運転を認める新しい技術基準(維持基準)、自主点検対象への抜き打ち検査などを盛り込んだ原子力規制の見直しを早める方針を明らかにした。(9月4日)

●ひびの兆候 4年間隠す

東京電力の原発トラブル隠し29件の一つ、福島第二原発3号機のシュラウドのひび割れの兆候

は、97年の自主点検で確認していたことがわかった。東電は昨夏、この原発でひび割れを発見したと発表、補強工事を申請した。経済産業省原子力安全・保安院は、ひび割れを4年間隠していたとみて、点検記録の虚偽記載とともに工事申請内容の妥当性を調べる。(9月5日)

●8年前に亀裂兆候

東京電力福島第二原発2号機のシュラウドに8年前に「亀裂の兆候(インディケーション)」が見つかったことが明らかになった。さらに国の指導で実施した今年5月の自主点検では、この部分を点検対象とせず「異常なし」と報告していた。経済産業省原子力安全・保安院は意図的な隠蔽の疑いもあるとみて調べている。(9月6日)

●東電本社など立ち入り検査

経済産業省原子力安全・保安院は、東京都千代田区の東電本社で電気事業法と原子炉等規制法に基づき立ち入り検査を実施した。(9月6日)

●福島県知事が批判

佐藤・福島県知事は、東京電力の原発トラブル隠しについて県庁で緊急会議を開き「この問題は東電だけを責めてもだめ。原子力政策を白紙で見直すべきだ」と述べた。(9月6日)

●プルサーマル中止決議案可決

新潟県柏崎市議会は、東電柏崎刈羽原発3号機のプルサーマル計画の中止を、国や東電に求める決議案を可決した。(9月6日)

●ひび割れ虚偽記載 94年から

原子炉のシュラウドのひび割れについて、東京電力は94年以降の原発9基の自主点検記録で虚偽を記載していたことがわかった。(9月7日)

●ひび割れ未修理で運転再開方針

東京電力は、8月の定期検査で原子炉内のシュラウドにひび割れが見つかった柏崎刈羽原発3号機について、ひび割れを修理せずに運転を再開する検討に入った。また、自主点検を巡るトラブル隠しが発覚し停止を決めた福島、新潟の原発5基も修理しないで運転を再開する方向だ。(9月9日)

ニュースクリップ

< 国 内 >

●高レベル放射性廃棄物最終処分場候補地

原発から出る高レベル放射性廃棄物を埋設する最終処分場の候補地について、処分事業を担う原子力発電環境整備機構は、火山から半径15キロの地域を除外するなどの基本方針をまとめ、総合資源エネルギー調査会の作業部会に報告した。

(7月16日)

●原発の軽微な損傷、運転OK

原発の軽微な損傷なら運転を認める方針が、総合資源エネルギー調査会の原子炉安全小委員会で決まった。経済産業省原子力安全・保安院が具体策を検討、2年後の導入を目指す。

(7月22日)

●浜岡原発、配管9400カ所点検

中部電力浜岡原発2号機で5月に起きた緊急炉心冷却システム(ECCS)系配管の水漏れに伴う対策として、中電は同原発1～3号機で配管約9400カ所を点検する計画を発表した。緊急点検としては前例のない規模。

(7月26日)

●敦賀原発増設計画

経済産業省は、02年度の電源開発基本計画を決定した。日本原子力発電が計画している敦賀原発3、4号機の増設が組み入れられた。3号機は10年度、4号機は10年度以降に運転を始める予定。

(8月2日)

●福島第一3号機、配管36本に損傷

経済産業省原子力安全・保安院は、定期検査中の東京電力福島第一原発3号機で、制御棒を動かすための配管36本に損傷が見つかったと発表した。同種の配管でこれほど多く損傷が見つかるのは異例。東京電力は274本の全配管を交換する方針。

(8月22日)

●柏崎刈羽3号機シュラウドに損傷

東京電力は、定期検査中の柏崎刈羽原発3号機で、原子炉圧力容器内にあるシュラウド(炉心隔壁)に損傷が見つかったと発表した。下部リングの溶接部付近に長さ5センチ前後のひびが4カ所見つかった。

(8月23日)

●電磁波、健康に影響確認

高圧送電線や電気製品から出る電磁波が及ぼす環境では子どもの白血病の発症率が2倍以上になるという調査結果が、国立環境研究所などによる初の全国疫学調査の中間解析の結果で出ていることがわかった。

(8月24日)

●シュラウドのひび、さらに広く

東京電力は、柏崎刈羽原発3号機で見つかったシュラウドのひび割れが、当初よりさらに広範囲に点在していると発表した。同機のプルサーマル計画の実施は困難な見通しとなった。(8月27日)

●福島第二原発2号機手動停止

東京電力は、定格出力で運転中の福島第二原発2号機の排気筒から出る排ガスの放射性物質の濃度が上昇したため手動停止すると発表した。福島県によると、放射性物質の濃度は通常の約1.5倍になっていた。

(9月2日)

●JCO臨界事故で論告求刑

99年9月に茨城県東海村のJCO東海事業所で起きた臨界事故で、業務上過失致死罪などに問われた法人としての同社と当時の同事業所長越島被告ら社員6人に対する公判が水戸地裁であった。検察側は論告で「ずさんで違法な操業を続けた」と指摘。同社に罰金100万円を、越島被告に禁固4年と罰金50万円、ほかの5被告に禁固3年6カ月～2年6カ月を求刑した。

(9月2日)

●被曝住民、賠償求め提訴

99年9月の臨界事故で被曝した住民2人が、事故を起こしたJCOと親会社の住友金属鉱山の2社を相手取り、健康被害への補償や慰謝料などの損害賠償を求めて水戸地裁に提訴した。健康被害についての住民の提訴は初めて。訴えたのは、JCO東海事業所から百数十メートル西で自動車部品会社を営んでいた大泉昭一さん(73)と妻恵子さん(62)。

(9月3日)

●核燃施設に配管ミス

青森県六ヶ所村にある日本原燃の使用済み核燃料貯蔵施設で、放射能を帯びているおそれがある蒸気や微粒子を取り除くフィルター装置の一部に配管ミスがあったことがわかった。誤った配管図をもとに接続したまま10年近く発見できなかった。

(9月13日)

●浜岡原発4号機4カ所ひび割れ

中部電力は、定期検査中の浜岡原発4号機で蒸気乾燥器の4カ所にひび割れが見つかったと発表した。安全性に影響はない程度の損傷で国への報告義務はないが、念のため報告したという。

(9月18日)

●浜岡4号機ひび3カ所と訂正

中部電力浜岡原発4号機で蒸気乾燥器の一部で見つかったひび割れについて、中電は「ひび割れは4カ所ではなく3カ所だった」と発表した。1カ所は鉄の酸化だったことがわかったという。

(9月19日)

●浜岡原発4号機シュラウドにひび

中部電力は、浜岡原発4号機のシュラウドでひび割れが見つかったと発表した。原因は応力腐食割れとみられる。

(9月20日)

●再処理工場、水漏れの穴特定できず

青森県六ヶ所村の使用済み核燃料再処理工場の貯蔵プールの水漏れ問題で、日本原燃は、6月末に水が漏れた場所と判断した部分から「水漏れにつながる穴を特定できなかった」と公表した。

(9月22日)

●女川原発1号機シュラウドひび割れ

東北電力は、定期検査中の女川原発1号機で、シュラウドを自主検査した結果、計67カ所のひび割れが見つかったと発表した。報告を受けた経済産業省原子力安全・保安院は、過去の点検で不適切な対応がなかったかなどを調べるよう求めた。

(9月23日)

●福島第一3号機、制御棒配管85%損傷

東京電力福島第一原発3号機で8月、制御棒を動かす配管に損傷が見つかった問題で、東電は全ての配管282本を調べた結果、約85%に当たる242本に損傷があったと発表した。このうち、ひびが進行して肉厚が3ミリ以下になり、国の保安規定を満たさなくなった配管は16本。うち3本はひびが貫通していた。塩分が作用した応力腐食割れとみられる。

(9月25日)

●福島第二2号機、放射性物質漏れ確認

福島第二原発2号機で9月、タービン建屋内や排気筒の放射性物質の濃度が上昇した問題で、東京電力は「燃料集合体1体から放射性物質が漏れているのを確認した」と発表した。

(10月10日)

●福島第一4号機、制御棒配管にひび

東京電力は、福島第一原発4号機の制御棒を動かすための配管10本にひびが見つかり、そのうち1本はひびが貫通していたと発表した。海水の影響による応力腐食割れとみられる。

(10月11日)

●JCO臨界事故公判結審

JCO東海事業所で99年9月に起きた国内初の臨界事故で、業務上過失致死罪などに問われた法人としての同社と当時の同事業所長ら6人に対する公判が水戸地裁で結審した。判決は3月3日に言い渡される。

(10月21日)

●再処理工場貯蔵プールに亀裂

青森県六ヶ所村の使用済み核燃料再処理工場の貯蔵プールが水漏れした問題で、日本原燃は、プール床面のステンレス製内張り4カ所の亀裂が見つかったと発表した。亀裂は長さ3.5～19.0ミリで、ヘリウムガス注入などの検査の結果、厚さ6ミリの内張りを貫いていることを確認したという。

(10月24日)

ベラルーシニュース

БЕЛАРУСЬ ИЗВЕСТИЕ

「とはいえ、ロシアとベラルーシ国民は共に暮らしたい」

地下資源のないベラルーシはどうやって自立していくのだろうか。91年ソ連邦崩壊以来、うなぎのぼりのインフレが続いている。この国の経済の不安定は、私達の支援協力・交流活動の先行きを見えなくさせ、途方に暮れる時がある。日本国内でも助成金や企業寄附がどんどん減っていく。こんな平行線の上をJCFは走っているのだ。カーブにさしかかって減速したり、向かい風にあうと、ハンドルさばきはたいへんだ。

8月半ば、ベラルーシのルカシェンコ大統領は、モスクワでプーチン大統領と会談した。ロシア・ベラルーシ統合は受け入れられないと決裂した。ロシアから提案された2004年1月1日の通貨統合も、ベラルーシ側は現実的ではないと蹴っている。

この状態をロシア連邦のスポークスマン、セルゲイ・ミロノフが言及している。

「私は、ベラルーシ大統領が国民の名の下にと発表することに注目している。ベラルーシに行って、国民が話しているのを聞いたんだ。“あなた方政治家たちは早く決心してくれ。昔のように私達が一緒に暮らせるように。だって、私達は同じ兄弟のスラブ民族じゃないか。”」セルゲイ・ミロノフは「いかなる理由があれ、政治家は国民の希望を実現させなければいけない。ベラルーシ大統領は合理的な統合と現実的な協調を図るべきだ。ベラルーシ国民はずっと話してきたことなんだから」と述べている。

ミロノフさんがどういう人たちにインタビューしたのだろうか。チェルヌスクのステパンじいさんやナージャおばちゃんも言っていた。「昔は良かった。バンに困ることはなかった。ウクライナやロシアにいる親戚や友達のところにも、気軽に行けたのに…」。「国民の名の下に…」と言いつつ、国民の素朴な願いと国の政治が乖離している現実はどこも同じか…。ベラルーシがロシアから供給されているガス料金の負債は2億8000万ドルだという。経済の建て直しに対策を立てられないこともまた…。

(事務局・神谷)

ニュースクリップ

<海 外>

●KEDO原発建屋着工

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）が核開発を凍結する見返りとして、朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）が提供する軽水炉型原発の建屋本体部分の建設工事が、建設予定地の咸鏡南道・琴湖で始まった。（8月7日）

●ロシア、「統一」を提案

ロシアのプーチン大統領は、ベラルーシのルカシェンコ大統領とクレムリンで会談し、両国を「統一国家」とする提案をした。ルカシェンコ大統領は「現状の（ロシアとの）連邦制を維持すべきだ」と、反対を表明した。事実上、ロシアによるベラルーシの統合を意味するため、今後の協議は難航が予想される。（8月14日）

●千島列島での核処分場認めず

ロシア原子力相は、千島列島のシムシル島（新知島）で、おもに外国から低レベル放射性廃棄物を受け入れる最終処分場計画について、建設を認めない方針を公表した。（8月21日）

●中ロ、エネルギー協力で一致

中国の朱首相とロシアのカシヤニフ首相は上海で定期会談し、エネルギー分野を中心とする経済協力の推進や核エネルギーの平和利用促進などで一致した。（8月22日）

●ユーゴから高濃縮ウラン空輸

米国とロシアは、ユーゴスラビア当局や国際原子力機関（IAEA）と協力して、ユーゴの首都ベオグラード近郊の原子力研究所から広島型原爆3個分に当たる高濃縮ウラン約50キログラムを、ロシアへ空輸する電撃作戦を実施した。テロリストなどの手に渡ることを未然に防ぐ措置。（8月22日）

●米、18回目の未臨界核実験実施

米エネルギー省は、ネバダ州の地下実験場で今年6月以降の未臨界核実験を実施したと発表した。ブッシュ政権下で5回目、97年7月以降の通算では18回（うち1回は英国との共同実験）になった。（8月29日）

●英の原発会社、政府が救済へ

英政府が経営危機に陥っていた英原子力発電会社のブリティッシュ・エナジーに対し、公的支援を実施する方針を固めた。英紙フィナンシャル・タイムズが報じた。（9月7日）

●IAEAが査察要求

国際原子力機関（IAEA）のエルバラダイ事務局長は、イラクと朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）に対して、IAEAの核査察を早急に受け入れるよう求めた。（9月16日）

●米、水爆原料生産再開へ

米エネルギー省核安全保障局（NNSA）は、水爆用トリチウムの国内生産体制が13年ぶりに整ったと発表した。テネシー州の商業原発が、国の原子力規制委員会から製造免許を得た。（9月25日）

●米、19回目の未臨界核実験実施

米エネルギー省は、ネバダ州の地下実験場で未臨界核実験を行ったと発表した。97年7月に始めてから通算19回目。ブッシュ政権下では6回目。（9月26日）

●キューバ、NPT批准を表明

キューバの国営通信によると、キューバ政府は核拡散防止条約（NPT）を批准したことを明らかにした。さらに、キューバは95年に署名した中南米核兵器禁止条約（トラテロルコ条約）も同時に批准したことを明らかにした。（10月7日）

●北朝鮮、核開発認める

米國務省は、ケリー國務次官補が10月初めに朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を訪れた際、北朝鮮側が、高濃縮ウラン施設建設などの核兵器開発を継続していることを認めていたと発表した。米政府は北朝鮮の核開発凍結を決めた米朝枠組み合意や核不拡散条約（NPT）への違反にあたるとして、北朝鮮に開発計画の中止を求めた。（10月16日）

こんにちは！

今井澄（JCF理事）さんの
ご冥福をお祈りします。



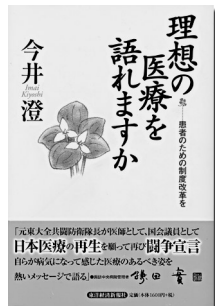
1995年、現地の子供と今井さん

1995年5月、ベラルーシ、ゴメリのツーリストホテル。第29次訪問団で初めてチェルノブイリを訪れた今井澄さんは、思い入れ

深くロシア民謡を歌ってくれました。東大闘争と地域医療、今井先生の歩んで来られた道はなんと激動に満ちていたことでしょう。

9月1日早朝、先生は静かに息を引き取られたそうです。

JCF設立以来、参議院議員としてのお立場から、JCFと厚生省・外務省の橋渡しをしていただきました。息をお引き取りになる前にも「ワッショイ、ワッショイ」と言われていたとか。先生のデモはずっと続くのでしょうか。どうぞ、安心して暮らせる社会に少しずつでも変わっていきけるよう、「ワッショイ、ワッショイ」と私たちを励まして下さい。ご冥福をお祈り申し上げます。（事務局・神谷）



「理想の医療を語れますか」

「元東大全共闘防衛隊長が医師として、国会議員として日本医療の再生を願って再び闘争宣言。自らが病気になるまで感じた医療のあるべき姿を熱いメッセージで語る」
（鎌田實）

著者・今井澄
発行・東洋経済新報社
定価・1600円＋税

Здравствуйте!



夕闇の中のステージ

Be-in

メッセージが歌になる時…

1967年にアメリカの西海岸でおこったムーブメント「Be-in」のイベントが、9月11日、米国同時多発テロのメモリアルデーにちなんで明治公園で行われ、JCFも一区画を借りて参加しました。そこでは非戦、平和、循環型の生活、脱原発など、様々なメッセージをそれぞれの形で訴える個人や団体が集まりました。

中でも私が特に心奪われたのは、浜岡原発の存在を危惧している人たちの歌や詩の朗読のステージでした。

彼らは原発の危険性を理屈ではなく本能的に感じ取り、心の底からのメッセージとして詩を朗読し、歌を作り上げて歌っていました。彼らの存在は揺るぎ無い説得力を持って私に訴えかけてきました。全存在をかけて、シンプルにイヤなもの、イヤだということの強さ。そのことを私は思い知らされました。

彼らに出会ったことで、私の中で浜岡原発の問題に対する捉え方が変わりつつあります。私という一人の人間の意識がすこしずつ転換し、それがさざ波のように周囲の人たちにも伝わっていくことは、大切なことかもしれません。

「Be-in」に参加を勧めて下さった安楽真紀さん、歌のステージに立った内田ボブさんたちとのつながりを作って下さった谷田部裕子さんに、この場をお借りしてお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。（事務局・重岡）

難民の世紀～漂流する民

豊田直巳



著者・豊田直巳
発行・出版文化社
定価・1800 円＋税

Book

アフガン難民、パレスチナ難民、コンボ難民、朝鮮民主主義人民共和国の難民、世界各地の難民取材したフォトジャーナリストである著者のルポルタージュ。なぜ戦争はなくなるのか、なぜ難民が生み出されるのか。難民問題から21世紀の私たちの生き方を問う。

永遠の不服従のために

辺見 庸



著者・辺見 庸
発行・毎日新聞社
定価・1429 円＋税

Book

「あとがきより」きたるべき（あるいはすでに到来した）戦争の時代を生きた方法とは、断じて強者への服従ではありえない。必要ならば、物理的にも国家に抵抗すべきである。だがしかし、もしもそうした勇気がなければ、次善の策として、日常的な服従のプロセスから離脱することだ。つまり、あてもないこうでもない異議や愚痴を並べて、いつまでものりくると服従を拒むことである。（辺見庸）

詩集 老世紀界限で

伊藤信吉



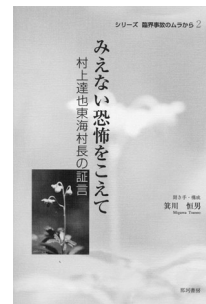
著者・伊藤信吉
装釘・司 修
発行・集英社
定価・2700 円＋税

Book

著者は1906年群馬県前橋生まれの詩人・評論家。昨年11月に出版された本詩集は第17回詩歌文学館賞を受賞。今年8月3日逝去。『伊藤信吉著作集』全7巻（沖積舎）が刊行中。「伊藤信吉、九十五歳、萩原朔太郎、萩原恭次郎の衣鉢を継ぐ、上州生まれ、凄腕のユーモアをたたえた詩人。近代詩の山脈をわが懐ろに暖ため、自在自然に詩を湧き立たせる。孫ほどの詩人たちのパリパリのライヴァル。」（大岡信）

みえない恐怖をこえて

箕川恒男



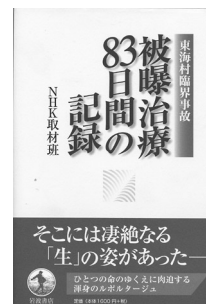
著者・箕川恒男
発行・那珂書房
定価・1900 円＋税

Book

99年9月30日のJCO臨界事故で、周辺住民を避難させるなど陣頭指揮にあたった村上達也・東海村長へのインタビュー記録。少年時代の原子力研究所誘致、臨界事故とその後の風評被害などの後遺症、これからの核施設への対応、住民参加のまちづくりへの提言などを率直に語っている。

東海村臨界事故 被曝治療 83 日間の記録

NHK 取材班



編者・NHK 取材班
発行・岩波書店
定価・1600 円＋税

Book

99年9月に起きた東海村臨界事故で大量の放射線を被曝した現場作業員の治療に当たった医師、看護婦たちの証言などからつくられたNHKスペシャル（2001年放送）を単行本化したもの。放射線被曝と闘う「いのち」の記憶を私たちはいつまでもここに刻んでおかなくてはならない。

Noam Chomsky ノーム・チョムスキー

監修・鶴見俊輔



監修・鶴見俊輔
発行・リトル・モア
定価・1000 円＋税

Book

今年9月11日に公開されたドキュメンタリー映画「チョムスキー9・11 Power and Terror」（企画・製作・山上徹二郎、監督・ジャン・ユンカーマン、音楽・忌野清志郎、シグロ作品）のテキスト。「誰だってテロをやめさせたいと思っている。簡単なことです。参加するのをやめればいい。」アメリカの外交政策を批判し続ける反骨の知識人ノーム・チョムスキーの講演とインタビュー集。



第 54 号

発行日 2002 年 10 月 26 日

発行人 鎌田 實

発行所
日本チェルノブイリ連帯基金

イラスト題字 貝原浩
イラスト 福田裕子

表紙デザイン 酒井隆志

スタッフ 神谷さだ子

布山みな子

重岡朱

高橋俊光

佐内裕之

協力 海老名英治

■編集後記

「宗男効果」で外務省支援委員会からの助成金がストップ、国際ボランティア貯金からの配分金も先細り、来年度をどうするか、事務局長と頭を抱える午後、連休があったせいかちょっと久しぶりに届いた寄付の振込用紙。つい守銭奴の眼で開封。表紙の金額に更に落ち込む。頁を繰ると会員さんからの『少なくともごめんなさい』のメッセージが飛び込んでくる。会員さんに見られていたようで、思わず赤面。その後、何だか会員さんと通じ合っているようで、胸が暖かくなる。JCFの訪問を待っている現地の子供や医療者のために、何とか来年も切り抜きたい！（布山）

■事務局日誌■

< 8 月 >

- 7 日 医療機器日通倉庫搬出
- 9 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信（信州大学）
- 21 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信（信州大学）
- 22 日 国際ソロプチミスト諏訪例会参加
- 24 日 よろず屋イベント
- 28 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信（信州大学）
NPO 学習会
- 30 日 カタログハウス・チェルノブイリ連絡会
- 31 日 ME ミーティング

< 9 月 >

- 4 日 医療機器船便出航
ゴメリ州立病院との定時衛星通信（信州大学）
- 11 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信（信州大学）
- 13 日 NPO 学習会
- 17 日 長野県防災対策室との会議
- 18 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信（信州大学）
- 23 日 よろず屋イベント・スライド上映会とボルシチを食べる会
- 25 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信（信州大学）

< 10 月 >

- 2 日 長野 NPO センター講座
ゴメリ州立病院との定時衛星通信（信州大学）
- 5 日 長野友の会「アレクセイと泉」上映会参加
- 8 日 堀尻男女共同参画講演会
長野郵政局 NGO 報告会
- 9 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信（信州大学）
- 10 日 松本消防署防災局取材
- 12 日 11 月渡航準備ミーティング
- 15 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信（信州大学）
JCF 秋の宴
- 17 日 アロカ営業所で液シンのセッティング見学
- 22 日 健康診断の渡航事前ミーティング
国際協力システム主催・NGO 支援事業に関する意見交換会
- 23 日 ベラルーシ大使館主催・チェルノブイリ支援会議
- 24 日 松本保健予防課に原子力発電所防災対策取材
- 25 日 堀尻男女共同参画講演会
- 26 日 金沢間善寺「アレクセイと泉」上映会参加
脱原発 2002in 信州
- 28 日 菅平小学校講演会
- 30 日 安積開成高校講演会
ゴメリ州立病院との定時衛星通信（信州大学）
- 31 日 国際ボランティア貯金推進協議会

JCF/日本チェルノブイリ連帯基金

●本部 〒390-0303

長野県松本市浅間温泉 2-12-12

TEL 0263- 46- 4218 FAX 0263- 46- 6229

E-mail jcf@jca.apc.org

Website http://www.jca.apc.org/jcf/

●東京 〒164-0003

東京都中野区東中野 4-4-1 ポレボレタイムス社気付

TEL03- 3227- 1405 FAX03- 3227-1406

●京都 〒607-8405

京都府京都市山科区御陵田山町 13-3

TEL075- 591- 7772

アレクセイと泉

Алексей и Крыница

上 映 予 定

上映日	上映場所	問い合わせ先・備考
— 2002 年 —		
・11/16(土)	茨城県 笠間中央公民館	0296-72-7952(井上) 監督参加
・11/17(日)	長野県 北佐久郡軽井沢プリンスホテル	0268-25-9422(深井) 監督参加
・11/20(水)	長野県 茅野市諏訪中央病院研修センター	0266-72-1000(小林) 監督参加
・11/21(木)	長野県 茅野市諏訪中央病院看護専門学校講堂	0266-73-8808(伊東) 監督参加
・11/22(金)	北海道 河東郡音更町文化センター	0155-42-4444(住吉)
・11/24(日)	山形県 酒田市東北公益文化大学	0234-22-7771(尾形) 監督参加
・11/24(日)	鹿児島県 鹿児島市黎明館講堂	099-260-3980(伊藤)
・12/1(日)	山口県 防府市アスピラート防府	0835-23-1891(高島)
・12/3(火)	北海道 江別市酪農学園大学内黒澤記念講堂	監督参加
・12/8(日)	東京都 渋谷区東京ウィメンズプラザ	03-3749-8328(金子) 監督参加
・12/14(土)	山口県 宇部市シルバーふれあいセンター	0836-33-3965(石川) 監督参加
・12/15(日)	埼玉県 東松山市南区市民活動センター	0493-39-4048(石平)
・12/21(土)～2003/1/17(金)	東京都 BOX 東中野	03-5389-6780 イベントあり
— 2003 年 —		
・1/18(土)	滋賀県 大津市生涯学習センター	077-534-6403(林)
・1/19(日)	山口県 下関市民会館ホール	0832-23-9061(沢村) 監督講演
・2/15(土)	東京都 豊島区西池袋自由学園明日館講堂	03-3971-7309(山川)
・2/28(金)	熊本県 熊本市産業文化会館	096-372-8903(斉藤) 監督参加
・3/8(土)	京都府 京都府立総合社会福祉会館	075-212-9132(大庭)
・3/15(土)	神奈川県 横浜市健康福祉総合センターホール	045-833-6038(牧野) 監督参加

※上映予定は変更になることがあります。
サスナフィルムにご確認下さい。

情報提供・サスナフィルム (03-3227-1870)

いのちテーマ 核見つめ



金沢自主上映会

10 月 26 日金沢市の間善寺で本橋監督を迎えて、「アレクセイと泉」金沢自主上映会が開かれ、JCF も参加しました。

ハンディキャップを持った仲間とも、共に支え合う、地域に根ざしたお寺での上映会には、時空を越えて、アレクセイの泉から、水や大気が流れ込んでくるようでした。